

平成23年度事業報告書

(平成23年6月1日から平成24年3月31日まで)

平成23年度6月からの事業報告ですが、継続事業については4・5月の事業も記述している部分があります。
また入館者数等の合計は年間での数値としており、年度比較を可能にしています。

実施事業の概要

当財団は、横浜市の文化財行政と密接な連携を図りつつ、横浜に関わる歴史資料や文化財の調査、研究、収集、保管及び公開に関する各種の事業を実施し、あわせてさまざまな事業改善を行ってまいりました。

今年度は、大震災の影響を受け、電力不足に伴う計画停電、防災計画の見直しへの対応が迫られ、一時的な来館者の減少もみられましたが、同時に、市民の共有財産である文化財の保存・継承という役割の重要性がより明らかになった年でもありました。

また、今年度は、2期指定管理者に当財団が5館一括の指定を受けた初年度にあたるとともに、6月に公益財団法人として県の認定を受けて、財団が新たな再出発を果たした年でもありました。指定管理提案書に即し、多くの市民の皆様方に親しんでいただける様々な事業を展開するとともに、公益財団法人としての新たな組織再編成等を実施し、着実な成果を上げることができました。

実施した事業

法人事業

I 財団本部事業

公益事業

I 埋蔵文化財センター事業

II 市史資料室事業

III 史跡等保存事業

IV 歴史博物館事業

V 開港資料館事業

VI 都市発展記念館事業

VII ユーラシア文化館事業

VIII 三殿台考古館事業

収益事業

I 歴史博物館収益事業

II 開港資料館収益事業

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

(注) なお、新規、追加、さらには重点的に取り組んだ事業については、「事業内容」欄等をゴシック文字で表記しています。

法人事業

I 財団本部事業

1 財団本部事業

平成 23 年 6 月 1 日に神奈川県 の 認定を受け、公益財団法人へ移行いたしました。

また、平成 23 年度から 27 年度までの第 2 期指定管理の初年度にあたり、組織体制を強化するため、従来の縦割の執行体制から横断的な協力体制を目指して、時代区分・分野別の組織再編などの機構改革を実施しました。

事業調整、諸会議の運営、規則整備等を実施し、円滑な組織運営を図りました。

	事業区分	事業内容
1	財団管理施設の 事業調整	(1) 諸会議の運営 ①役員会 月 2 回 ②経営会議 月 1 回 ③企画会議 月 1 回 ④管理職会議 月 1 回 ⑤課長会 月 2 回程度 <主な検討項目> ①理事会について～理事会の議題等の検討 ②コンプライアンスについて～ コンプライアンス体制の整備・規則の制定 ③施設のあり方検討委員会について～所管局からの照会等への対応検討 ④防災計画の見直しについて～3. 11 の震災を受けた計画の検討 ⑤超勤命令の適正化について～超勤手続きの適正化、休日出勤に伴う振替の徹底化 ⑥企画展について～平成 23 年度開催企画展の評価、平成 24 年度開催企画展の報告 ⑦連携事業についての調整 ⑧有期契約職員の転換について～職員転換要綱の制定 ⑨研修計画について～研修計画の作成、年間スケジュールの作成 ⑩帰宅困難者一時滞在施設の協力について～歴史博物館を対象施設とし、動員体制、マニュアル等の検討
2	理事会・評議員会 の開催	(1) 理事会の開催 年 4 回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成 (2) 評議員会の開催 年 2 回

		議案検討・確定、招集、開催、議事録作成
3	財団人事・労務	(1) 職員の採用・退職事務 (2) 職員給与手当計算・支給 (3) 社会保険、所得税、住民税の控除・納付 (4) 定期健康診断の実施 (5) 労災申請等 その他
4	財務の管理	(1) 予算管理 (2) 経理システムの移行 (3) 総務課事業の予算執行、現金管理 (4) 業者選定委員会の開催、入札 (5) 「寄付要綱」の検討
5	研修計画の作成・実施	(1) 研修計画の作成 (2) 外部研修への参加調整
6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理報告提出(月次、四半期、年度) (2) 外郭団体業務監察、外部評価委員会等の対応
7	防災対策	(1) 防災計画の見直し (2) 防災訓練の実施 (3) 帰宅困難者一時滞在施設の協力対応
8	共同広報の実施、メルマガの配信	(1) 財団ホームページの管理 情報公開項目の更新等 (2) メルマガ「よこはま歴史かわら版」配信 月1回および臨時号
9	エデュケーター事業	(1) 学校による博物館利用の促進 ①校長会・各区社会科研究会への説明 ②各館での見学時のガイダンス、体験指導 ③訪問授業の実施 ④教員のための学習会 (2) 教育委員会による教員研修の総合調整 ① 初任者研修 ②横浜教師塾研修 (3) 「博物館利用検討会」「中学校教材開発研究会」運営 現場教員との協議・研究

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	事業調整、諸会議の運営、人事労務事務等、適切に実施することができた。	B

(注) 評価について
 各事業について、平成 23 年度事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しています。
 評価基準については、平成 21 年 6 月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価：目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価：目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価：目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価：目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価：目標値 80%未満

公益事業

I 埋蔵文化財センター事業

1 埋蔵文化財整備事業（定款第4条第1項第1号①）

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめるほか、昨年度に引き続き、写真資料等のデジタル化・出土品保管状況の改善事業を実施しました。

(1) 遺物整理・調査研究

項 目	事 業 内 容
<small>おっぱら</small> 大原遺跡の整理 （2／2年次）	実測図作成、トレース、図版作成、原稿執筆等を実施。 本年度に報告書を刊行した。 縄文時代中期・弥生時代後期・平安時代集落ほか。 現在地：都筑区早瀬1丁目（旧港北区新吉田町）
<small>かがばら</small> 加賀原遺跡の整理 （2／3年次）	実測図作成、トレース、原稿執筆等を実施。 縄文時代中期集落ほか。 現在地：都筑区加賀原1丁目（旧港北区池辺町）
<small>こんたばら</small> 権田原遺跡の基礎整理 （2／4年次）	出土品接合・復元、図面等記録類の基礎整理作業を実施。 先土器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良平安時代集落ほか。 現在地：都筑区早瀬3丁目（旧港北区新吉田町）
港北ニュータウン内遺跡の記録類検討・整理	道中坂上遺跡・綱崎山遺跡・神隠丸山遺跡等の記録類を検討し、資料整理及び挿図の作成を行った。

(2) 報告書刊行

項 目	事 業 内 容
大原遺跡	遺物整理・調査研究の成果を報告書として刊行した。 作成部数300部

(3) 資料保存・整理

項 目	事 業 内 容
記録資料デジタル化	写真資料のデジタル化と整理を行った。また、 デジタル化済みの測量図面について画像処理及び整理を実施し 、資料保存と活用の利便性向上を図った。 デジタル化写真点数 7, 975カット （昨年度：5,987カット） 処理図面点数 13, 123カット

出土品等保管再整備	三殿台考古館での収蔵対象である西・中・磯子・南区以外の市内遺跡出土品（折本西原遺跡・朝光寺原遺跡・専念寺裏遺跡ほか）について、同館より搬入・収蔵した。 搬入数量：木箱 527箱 図書類（カルトン22セット、筒11個、保護なし3セット）
図書等の受入れ・整備	受贈図書の受入れ、整理、保管、データのカード化などの整備を行い、市民の利用に供した。 受入れ点数：（調査報告書） 931点 （その他） 288点 （合計） 1,219点

（４）緊急雇用創出事業

項 目	事 業 内 容
埋蔵文化財（自然遺物）水洗・選別事業（緊急雇用創出事業）	政府の緊急雇用創出事業として、収蔵・保管されている貝塚出土の遺物について、ふるい掛け・水洗を行い、貝類、獣・魚骨等の自然遺物及び人工遺物を分類・整理し、保管するとともにデータを作成した。本年度は平台貝塚（中区）の自然遺物を中心に、予定どおり実施した。 実施期間：第1期5～9月 第2期10月～3月 整理数量：土のう袋535袋、テンバコ79箱 雇用人数：34人（延べ2,146人）



遺物整理



緊急雇用創出事業

2 普及啓発事業（定款第4条第1項第1号②）

港北ニュータウン開発に伴う発掘調査及び公共事業等に伴う発掘調査により出土した遺物・遺構の整理を進め、その成果の市民への還元及び埋蔵文化財保護への市民の関心を高めるため、広報紙を発行し、歴史博物館や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを実施しました。

（１）広報

項 目	事 業 内 容
『埋文よこはま』の刊行	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 埋文よこはま24・25（年2回） 各10,000部

インターネットによる 情報公開	財団開設のホームページ上で、市内の埋蔵文化財情報や、Q&A、財団各施設の情報提供、刊行物の紹介等を行った。 アクセス件数 17,003件 (前年度14,023件)
--------------------	--

(2) 講座・講演会等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
講座「横浜の考古学」 平成23年11月12日(土)・ 11月19日(土)(連続2回)	「すまいと建物ー原始から古代までー」をテーマに、連続講座を実施した。本年度も1日2講座を開催し、2日間で全4講座とした。 11/12 第1回 「移動する生活から定住へ」 山田光洋 第2回 「様々な住居・様々な建物」 石井 寛 11/19 第3回 「竪穴住居～炉からカマドへ～」 鈴木重信 第4回 「弥生時代以降の掘立柱建物」 古屋紀之 会 場：横浜市歴史博物館 参加料：1,000円 参加者：70人(目標：120人)
「横浜の遺跡展」関連講座 平成23年1月8日(日)	「横浜の遺跡展」関連事業として、講演会を実施した。 演題：『横浜市北部の弥生時代後期を探る』 「横浜市都筑区 北川谷遺跡群の動態」 古屋紀之 「日吉台・矢上台遺跡群と鶴見川流域の弥生時代後期社会」 安藤広道(慶應義塾大学准教授) 会 場：横浜市歴史博物館 参加料：500円 参加者：167人(目標：60人)
体験学習 定期開催：6～12月の偶数月最終 土曜日及び夏休み期間に実施 (目標：180人)	偶数月の最終土曜日と学校の夏休み期間中を定期開催日として、土器文様の拓本とりと、勾玉づくりまたは土器パズルづくりをセットとする体験学習教室を開催した。 また、竪穴住居跡の体験発掘を新たに導入した。 体験学習(8回開催) 参加者：29人 体験発掘(2回開催) 参加者：5人 定期開催のほか、出前での開催を実施した。 出前開催：全7回 参加者：155人 5/14・15 本郷地区センター 勾玉作り実演とセンター紹介 5/23 みどり会 参加者：20人 6/28 ふじやま公園 参加者：9人 8/2 睦コミュニティハウス 参加者：4人 8/20 栄区民文化センターリリス 参加者：55人 8/23 青葉台コミュニティハウス 参加者：40人 9/13 翠風荘 参加者：7人 11/12 六人会 参加者：20人

<p>講師派遣</p> <p>全6回</p> <p>参加者：合計422人</p>	<p>7/25（月） 鹿島保宏 会場：笠間ケアプラザ他 「笠間中央公園遺跡」座学と現地散策（主催：栄地域史研究会） 受講者：28人</p> <p>9/7（水）・11/8（火） 鹿島保宏 会場：あーすぷらざ他 「埋蔵文化財と朝比奈峠」（主催：鎌倉研究会） 受講者：30人</p> <p>10/9（土） 古屋紀之 会場：東京都文京区立男女平等センター 講演会（主催：市民の古代研究会・関東） 受講者：45人</p> <p>10/29（土） 古屋紀之 会場：かながわ県民センター 第4回考古学講座（主催：神奈川県教育委員会） 受講者：188人</p> <p>11/23（水・祝） 山田光洋 会場：かながわ県民センター 第5回考古学講座（主催：神奈川県教育委員会） 受講者：91人</p> <p>11/26（土） 鹿島保宏 会場：港南図書館 「港南区の遺跡」紹介（主催：港南歴史協議会） 受講者：40人</p> <p>※埋蔵文化財に関するもののみ。</p>
<p>埋蔵文化財センター見学者対応</p>	<p>埋蔵文化財センターへ来館した市民に、センターを案内し、資料について解説を行った。</p> <p>見学者：296人</p>

(3) 展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
<p>「地面の下にはナニかある—港南・南区の遺跡—」展</p> <p>平成23年7月15日（金）～ 平成23年7月26日（火）</p> <p>会期12日</p>	<p>平成16年度より市内を巡回してきた地域展の最後の2区として、港南区民文化センター「ひまわりの郷」で、港南・南区の遺跡出土品や写真パネルを展示した。小学校や地域の方々の協力を得てその所蔵品も展示した。また、随時フロアレクチャーを開催し、体験学習も実施した。</p> <p>会場：港南区民文化センター「ひまわりの郷」</p> <p>入場者：1,251人（目標：900人）</p> <p>体験学習参加者：80人（全4回）</p>

平成 23 年度 横浜の遺跡展 「弥生時代後期の横浜」 平成 23 年 12 月 10 日(土)～ 平成 24 年 1 月 9 日(月・祝) 会期 20 日	本年度発掘調査報告書を刊行した大原遺跡と、北川貝塚・北川表の上遺跡・権田原遺跡などを中心に、港北ニュータウン地域における弥生時代後期の集落動態についての展示を実施し、関連事業として講演会を開催した。 会場：横浜市歴史博物館 観覧者：3,045人 （目標：3,000人） また、開催中フロアレクチャーを4回実施した。 参加者：計100人
--	--

(4) 実物資料利用

項目	事業内容
発掘資料・写真資料の貸出展示等	遺物貸出：市内小学校で常設展示 11件
	コミュニティハウスで常設展示 1件
	郷土史団体等市民団体 2件
	横浜市ほか公共機関 1件
	写真貸出：博物館等の施設 1件
	横浜市ほか公共機関 5件
	写真掲載：博物館等の施設 0件
	出版社等 14件
横浜市ほか公共機関 6件	

(5) 資料移管・受贈

項目	資料の内容
資料の移管	篠原城址（港北区 No. 206 遺跡）出土資料（土器・国産陶器等コンテナ 1 箱、図面・写真ファイル等） 移管元：株式会社 博通
	野島公園内で発見された人骨（段ボール箱 1 箱） 移管元：金沢警察署（市教育委員会経由）



「横浜の遺跡展」講演会



「地面の下にはナニがある」展



リリスの大冒険

3 発掘調査事業（定款第4条第1項第1号①）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を行いました。

（1）発掘調査

事業略名称	遺跡名	所在地	調査区分	委託者
神奈川台場（東海面側石垣部）発掘調査	神奈川台場	横浜市神奈川区星野町	確認調査	株式会社栄光
瀬戸神社旧境内地内遺跡調査	瀬戸神社旧境内地内遺跡	横浜市金沢区瀬戸	本発掘調査	横浜市土地整備局
三溪園内苑流れ試掘調査		横浜市中区本牧三之谷	確認調査	（財）横浜市三溪園保勝会
称名寺歴代住職墓所試掘調査		横浜市金沢区金沢町	試掘調査	横浜市教育委員会

（2）整理報告書作成

事業略名称	遺跡名	所在地	委託者	備考
神奈川台場（東海面側石垣部）発掘調査	神奈川台場	横浜市神奈川区星野町	株式会社栄光	報告書を刊行
三溪園内苑流れ試掘調査		横浜市中区本牧三之谷	（財）横浜市三溪園保勝会	報告書を作成
称名寺歴代住職墓所試掘調査		横浜市金沢区金沢町	横浜市教育委員会	報告書を刊行
中区 No. 12 遺跡（平台貝塚）整理報告	平台貝塚	横浜市中区本牧緑ヶ丘	中区役所	報告書を刊行



瀬戸神社旧境内地内遺跡調査

4 施設連携事業（定款第4条第1項第1号①）

項目	事業内容
横浜都市発展記念館との連携事業	横浜都市発展記念館と連携して、近代の煉瓦造建築遺構（三溪園・旧松風閣）の測量調査を行った。
三殿台考古館との連携事業	埋蔵文化財センターで収蔵すべき市内遺跡出土品を、三殿台考古館より搬入した。また、三殿台考古館収蔵写真データのデジタル化に協力した。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン所在遺跡について、予定通り整理報告作業をすすめ、一遺跡の報告書を刊行しました。 デジタル化した写真資料の点数は、昨年度比130%を上回り、また記録図面の画像処理及び整理は、デジタル化済みの全点を完了し、資料保存と活用の利便性向上を図りました。 昨年度に引き続き、緊急雇用創出事業として、貝塚から出土した自然遺物の整理・データ化を予定どおり行い、保管状況を改善することができました。	A
普及啓発事業	「地域展」の来場者は目標の120%を超え、「横浜の遺跡展」の講演会参加者も昨年度を大幅に上回り、目標の278%に達しました。体験学習は、新たに「発掘体験」をメニューに加え、ボランティアの協力を得て実施しました。また、外部の施設の事業に積極的に参加し連携しました。「横浜の遺跡展」でのフロアレクチャーの特別開催など、市民のニーズに应运ってきました。	A
発掘調査事業	昨年度に引き続き実施した三溪園整備事業に伴う試掘調査をはじめ、発掘調査・整理報告作業ともに各4件を受託しました。	B
施設連携事業	三殿台考古館より出土遺物を搬入しました。また、横浜都市発展記念館と連携して近代遺構の調査を実施しました。	B

II 市史資料室事業

横浜市総務局が所管する横浜市史資料室の所蔵資料（昭和期の市政に関する資料や、横浜の歴史・文化、また市民の生活に関する資料など、昭和の横浜を記録した資料）の保存・管理を行いました。あわせて、現代史に関する新たな資料の調査・収集を図り、所蔵資料の整理・目録化を進めました。公開事業として所蔵資料の閲覧をはじめ、展示会「野毛山の『昭和』一坂と公園の物語ー」・「ヨコハマの台所ー横浜中央卸売市場の80年ー」を開催して、所蔵資料の紹介をおこないました。資料室内展示コーナーでは、随時所蔵資料をミニ展示で紹介し、**見学者も大幅に増加しました。**

また市史所蔵資料・写真を、企業・団体・学校等に貸出しました。特に横浜開港資料館・横浜都市発展記念館等を中心に市内博物館・図書館にも**展示資料を提供**しました。さらに、横浜開港資料館・横浜都市発展記念館の企画展示開催にあたっては、市史配属職員がその企画に参加しました。

所蔵資料の調査研究の成果として、刊行物『横浜市史資料室紀要 第二号』、『報告書横浜の文化人と戦後復興』、『市史通信』第11号～13号を発行しました。来年度に向けては、横浜開港資料館・横浜都市発展記念館との**共同研究や共同事業**を立ち上げるため、検討作業を開始しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料の収集・管理・公開

項目	点数	事業内容
資料の寄贈	寄贈 19件 5,419点	主な収集資料：前川写真館資料・竹前榮治資料・半井清家資料ほかの寄贈を受けた。
図書・刊行物	約4,780点	図書（約780冊）・行政刊行物（約4,000冊）の収集・整理を行った。
資料の移管	3件 909点	移管資料：総務局総務課・文化観光局観光振興課・議会局政策調査課の歴史的公文書（含写真）の移管を受けた。
資料の購入	23件 78点	主な資料：復興の横浜、町内会書類綴、接收住宅組合加入申込書、横浜関連絵葉書など
資料のマイクロ化等	マイクロフィルム 120,000コマ プリント 45,247枚 写真複製 4,475枚	公開用の複製資料を作製するため、資料をマイクロフィルム撮影するとともに、一部の資料については、プリント製本を作製した。そのほか、写真資料の複写・スキャニングによりデータ化を行った。 主な資料：元街小学校資料、神奈川新聞など （横浜市総務局法制課予算にて執行）

資料整理・保存		収集資料の整理、目録の作成、及び一部資料について公開に向け、再整理を行った。あわせて、館蔵資料データベースを拡充した。 また、中性紙封筒への封入及び再整理資料の中性紙封筒への入れ替えを行った。
資料公開		資料閲覧・複写・レファレンス対応等を行った。
資料貸出	貸出件数 206 件	出版物掲載 (51 件)、放映等利用 (37 件)、展示出陳 (46 件)、複写(旧公図) (33 件)、その他授業で使用、HP 掲載など (39 件) のために写真、パネル及び資料の貸出を行った。(計 206 件)

2 調査研究事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号①)

(1) 調査研究

項 目	事 業 内 容
資料調査	資料の新規寄贈、追加寄贈にあわせて、安芸周一家・森田正純家・田村明家・半井清家等を調査し、寄贈資料の整理・目録化をおこなった。
展示会等の関連調査研究	展示会「野毛山の『昭和』」開催に当って、野毛坂の関神仏具店・天保堂菫部書店等の資料調査・ヒヤリング等をおこなった。 横浜開港資料館「フォトスタジオの聖地」開催に連携して、ミナミ写真場・松島写真館等を共同で調査、また前川写真館の調査を引き続きおこなった。 展示会「ヨコハマの台所」開催に当って、横浜中央卸売市場・食肉市場等の資料調査・ヒヤリング等をおこなった。 報告書『横浜の文化人と戦後復興』に関連して篠原あや家等の調査をおこなった。
共同調査研究	横浜都市発展記念館・横浜開港資料館との共同研究を立ち上げ、将来、財団として昭和期をテーマとしたどのような事業を展開できるのかを検討するため、所蔵資料の確認とテーマの検討をおこなった。 市史資料室・開港資料館・都市発展記念館が所蔵する地図のデータベースを作成するための検討作業をおこなった。

3 企画普及事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号②)

(1) 普及事業

1) 閲覧室運営

項 目	平成 2 3 年度	平成 2 2 年度	平成 2 1 年度
展示見学者 (人) (注 1) 目標数 6,000 人	10,620	5,971	6,282
入室者数 (人) 目標数 1,200 人	963	899	1,105

資料閲覧室利用者数（人）（注2）	1 6 3	1 9 6	2 3 3
複写申込件数（件）	3 3 1	2 8 0	3 3 1
レファレンス件数（注3）	1 4 0	1 1 9	9 6
電話レファレンス件数（注4） 目標数 300 件	3 0 5	2 3 3	2 7 9

（注1）市史資料室内展示コーナーの見学者数

（注2）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

（注3）レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

（注4）メールレファレンス含む

（2）情報発信・普及広報

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』（No. 11～No. 13）を刊行（各 5,000 部）した。資料提供者（機関）、及び関係者（機関）へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容の PDF ファイルをホームページ上でも公開した。
『紀要』の刊行	所蔵資料の調査を中心とした、横浜の昭和史に関する研究成果を発表するため、『横浜市史資料室紀要』第2号（2,000 部）を刊行した。今回は横浜市政、特に飛鳥田元市長へのインタビュー原稿、及び論文の執筆も依頼、掲載した。
報告書『横浜の文化人と戦後復興』の刊行	市史資料室が所蔵する牧野勲関係資料目録および、平成 22 年度の展示会『戦後横浜の復興を支えた文化人たち』と講演会『牧野勲と戦後横浜の文化人たち』の内容を一書にまとめ、報告書『横浜の文化人と戦後復興』（2,000 部）を刊行した。 横浜の文化人、北林透馬氏に関する論文の執筆も依頼、掲載した。
横浜市史資料室内展示コーナー（ミニ展示）	所蔵資料より、スクラップブック「舞踏の蒐集」、「市庁舎建設写真」、「塚場英氏撮影写真」（「昭和三〇年頃の横浜—所蔵写真より—」）を展示ケースで紹介。また展示会と連動した展示を行い、導線を表示するなど、展示コーナーへの入室者増加に努めた。
展示会の開催	展示会「野毛山の『昭和』—坂と公園の物語—」 平成 23 年 7 月 16 日（土）～8 月 28 日（日） 入場者数：約 5,000 名（センサーカウンターによる） 憩い・学び・娯楽の場として馴染み深い野毛山は、時代によってどのような空間であったのか。関東大震災・戦災を経た昭和期における野毛山の変化を、写真資料を中心に展示した。
	展示会「ヨコハマの台所—横浜市中央卸売市場の 80 年—」 平成 24 年 1 月 4 日（水）～平成 24 年 3 月 4 日（日） 入場者数：約 5,000 名（センサーカウンターによる） 中央卸売市場の歴史を、昭和 30 年代～40 年代の写真を中心に振り返るとともに、高度成長期に変容する「食」の周辺も紹介した。

その他促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜開港資料館第2回企画展示協力「横浜ノスタルジア」 ・「ハマのモダンボーイ・モダンガールと戦後」(横浜都市発展記念館主催連続講座「モダン都市横浜を考える」第6回) ・横浜開港資料館第4回企画展示協力「フォトスタジオの聖地・横浜」
ホームページの公開	<p>ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、刊行物の案内、展示会等の案内、『市史通信』の掲載など情報発信を行った。(横浜市総務局法制課で作成・随時更新)</p> <p>アクセス件数：約10,000件</p>
広報宣伝活動	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会「野毛山の『昭和』」取材対応(神奈川新聞・産経新聞・横浜ケーブルビジョン・『ぱど』) ・展示会「ヨコハマの台所」取材対応(朝日新聞・読売新聞・神奈川新聞・東京新聞・ヨコハマ経済新聞・広報よこはま・タウンニュース・ケーブルシティ横浜・『ぱど』・ラジオ日本・tvk「ずばり!横浜」) ・ちらし・ポスターの発送、横浜市PRボックスへの配布など。 ・空襲関連貸出資料のご案内ちらしを、市内小学校、川崎市内一部小学校へ発送。 ・横浜市史資料室閲覧室の案内、既刊刊行物の案内を情報誌『市史通信』とともに全国発送。
その他	<ol style="list-style-type: none"> ① 学芸員課程学生の施設見学・案内受入(桜美林大学：参加15名) ② 講師派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜における『関東大震災』研究の現状と課題について」(公益財団法人 土木学会) ・「焦土から立ち上がる神奈川区の戦後復興」(反町駅前ふれあいサロン) ・「横浜の地震・津波をふりかえるー来るべき地震に未曾有の称号を与えないためにー」(第2回震災予防講演会) ③ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史地震研究会 行事幹事(H23.9/17~H24.9/16)

	実施概要	評価
市史資料室事業	<p>展示見学者は大幅に増加し、市史入室者も昨年度にくらべ微増になりました。都発・開港との共同事業についても一部を実施し、来年度に向けての検討にも着手しました。</p>	A

Ⅲ 史跡等保存事業

1 八聖殿郷土資料館事業（定款第4条第1項第1号②・③）

（1）横浜市八聖殿郷土資料館事業

横浜市の歴史・文化財関連諸施設の維持管理及び運営を行いました。

項 目	事 業 内 容
連続講座の開催	本牧地域の歴史を交えて歴史講座を開催した。 毎月第3土曜日（全10回（年間計12回）） 参加料：無料 参加者：計404人（年間計483人）
特別講座の開催	月1回の連続講座に参加できなかった市民を対象に、連続講座3回分を集約した講座を開催した。 4回開催 参加料：無料 参加者：計146人
歴史散歩の開催	連続講座で取り上げた地域を中心に、実際に現地へ赴いて、散策しながら地域の歴史について解説した。 4回開催 参加料：無料 参加者：計106人 第1回 10/9（日） 大船長尾砦周辺 参加者：29人 10/13（木） " 参加者：25人 第2回 2/11（土） 港南区日野周辺 参加者：24人 2/16（木） " 参加者：28人
学校連携 （目標数400人）	近隣の小中学校生徒の来館にあたって教員と事前打ち合わせのうえ、説明を行った。 小学校 3校185人（年間計4校203人） 中学校 1校165人 年間合計368人
展示更新ほか	2階松沢家住宅の障子の張替えや、汚れが目立つ説明文等の更新を行った。
情報発信	ホームページで施設紹介を行ったほか、地区センター等に講座開催の情報を発信した。 また、旅行雑誌の求めに応じ情報提供し、郷土資料館の周知に努めた。

（2）横浜市八聖殿郷土資料館入館者の推移（目標数10,000人）

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
横浜市八聖殿郷土資料館(人)	6,054	7,741	10,238

2 史跡保存事業（定款第4条第1項第1号③）

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稻荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡等保存事業	八聖殿郷土資料館では、昨年度に比し入館者が78%となっており、低落傾向となっておりますが、講座や歴史散歩等の行事参加者は93%～101%と前年並みを確保しました。学校団体は近隣の小中学校4校の来館がありました。史跡保存は、順調に管理を行いました。	C

IV 歴史博物館事業

横浜市歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことに寄与するため、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深め、市民の期待や要望に即した幅広い活動を目指し、本年度も各種事業に積極的に取り組みました。

博物館事業の根幹となる資料の収集・保管・整理、修繕・燻蒸等は着実に実施しました。また調査研究事業は5本を行い、その成果は講座・講演会、企画展の開催に活用しました。

企画普及事業では、展覧会を6回開催すると共に、学校団体による利用促進のための月曜日開館、**児童向けにも配慮した考古学の展示**、小学校への出前授業・出張土器焼き体験や、集客イベントとしての学芸員による常設展示解説、収蔵資料ミニ展示と解説などを実施しました。市民協働では、地元の郷土史の会や企業との連携、遺跡公園ガイドボランティアの活動とともに、**活動支援ボランティアの活動も定着し、着実な成果をあげています**。次期の遺跡公園ガイドボランティアの募集・研修も実施しました。また、**都筑民家園と協働して地元町内会や商業施設の協力を得て、歴史博物館・民家園・遺跡公園を会場に現代アート展を開催しました**。さらに、博物館の講座OB会の4団体が博物館の支援、博物館との協働を目的に「関連団体連絡会（もりあげ隊）」を作り、活動をはじめました。軌道にのった市民協働による民俗調査もふくめ、市民協働では多様な形の活動を展開しました。

施設の管理運営面では、**継電器修繕および中央監視装置部品交換工事、野外施設の高床倉庫カヤ壁改修を行いました**。

これらの事業を通して、施設の有効利用と認知度・来館者満足度が向上し、当初設定した目標もほぼ達成することができました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜市歴史博物館における展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸を行いました。

（1）資料の収集・管理

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 531件 3,841点 寄託 0件 0点	主な収集資料：紙芝居、稲荷講幟旗、地神講掛軸、絵はがき、組み立て式カマド、昭和40年代生活用具ほか
実物資料の購入	20件 25点	主な収集資料：佐久間象山草稿、相州鎌倉郡小菅村田方反別帳、不二三十六景 神奈川海上、江の島もうで、先代旧事本紀（版本）、貞信公記（写本）、ほか

レプリカ製作	6件6点	主な資料：称名寺貝塚・B貝塚出土鹿角製釣針・銚頭、平城宮跡出土「相模工一」木簡・「豊嶋郡大領」木簡
マイクロ撮影	3,600コマ(複製7本、製本75冊)	主な資料：金沢藩士萩原家文書
資料の修繕・保存	2件 24点	主な資料：赤羽刀の研磨、佐久間象山関係書簡(23点)の補修
資料の整理活用(収集資料のデータ入力)	1,302件	実物資料・図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用(収集資料の貸出)	5件13点	他の博物館・資料館での企画展・特別展に本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	3,506件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 700カット 新規登録件数 550件	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理・登録を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 64件 127点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H23.4～H24.3)

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵画(点)	11 (5)	— (—)	— (—)	— (—)	11 (5)	1,936 (1,925)
工芸品(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	132 (132)
彫刻(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	20 (20)
書跡(点)	— (—)	— (—)	2 (—)	— (1)	2 (1)	49 (47)
典籍(点)	7 (63)	— (—)	— (—)	— (—)	7 (63)	3,989 (3,982)
古文書(点)	4 (1)	— (2)	— (—)	— (—)	4 (3)	31,172 (31,168)
古記録(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	39 (39)
絵図(点)	1 (6)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (6)	166 (165)
歴史資料(点)	2 (—)	— (—)	2,652 (117)	— (—)	2,654 (117)	13,729 (11,075)
考古資料(点)	— (—)	6 (1)	332 (—)	— (—)	338 (1)	1,367 (1,029)
民俗資料(点)	— (—)	— (—)	855 (547)	— (—)	855 (547)	9,247 (8,392)
図書文献資料(点)	131 (411)	— (—)	1,024 (1,492)	— (—)	1,155 (1,903)	58,362 (57,207)
合計	156 (486)	6 (3)	4,865 (2,156)	— (1)	5,027 (2,646)	120,208 (115,181)

※ () 内は、前年度点数。



寄贈資料 街頭紙芝居



寄贈資料 地神講掛軸

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	平成23年	平成22年	平成21年
閲覧室利用者数(人)	7,646	7,871	7,520
複写申込件数(件)	468	549	925
複写枚数(枚)	4,469	5,043	7,000
レファレンス件数(件)	582	575	491

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	燻蒸庫を使った二酸化炭素燻蒸のほか、資料に則した簡易燻蒸も合わせて行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
横浜市歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料。

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

収集資料の整理や調査研究、企画展や講座・講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

(1) 基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
縄文時代後期の漁具の研究 (1/3年次)	市域出土の縄文時代後期の漁具・動物遺存体を分析することにより、当時の漁労活動の実態を明らかにする。横浜市ふるさと歴史財団および他機関(立正大学、江戸東京たてもの園など)所蔵の

	市域貝塚出土資料の調査を進めた。
佐久間象山資料の研究（1／3年次）	当館所蔵「熊倉家伝来 佐久間象山関係資料」を分析し、佐久間象山と横浜開港の関係を再検討する。当館所蔵の資料群「熊倉家伝来 佐久間象山資料」の各資料を読み込み、内容を把握を行った。
横浜市所蔵街頭紙芝居の研究（1／3年次）	中央図書館所蔵資料の一部整理と撮影を行ったほか、当館に寄贈された街頭紙芝居コレクションについて整理し、調査報告書に報告した。

（2）基礎的調査研究2：地域資料に関する調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
埴輪の生産体制と地域社会の研究（1／3年次）	横浜市域出土の埴輪の事例から、生産・供給体制の分析を通じて地域間ネットワークの様相を検討する。横浜市域出土の埴輪の事例を集成を行いつつ、課題の抽出を行った。
久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏の研究（1／3年次）	久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏：室町・戦国時代、南区蒔田を拠点とした吉良氏・蒔田氏の資料を収集・検討することにより、その実態を明らかにする。本年度は、担当者が産休・育休となったため、実施しなかった。 代わりに大倉精神文化研究所と協力し、研究所内遺跡の出土資料（弥生時代中期）の調査研究を行った。

（3）市民協働の調査研究：フィールド調査を基礎として、市民とともに調査研究を行う

項目	目的・意図 及び 内容・成果
市民協働民俗調査（1／3年次）	「民俗に親しむ会」を組織化し、フィールド調査を行った。

（4）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	24年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「人と物の流れ」に関する調査研究	24年度以降に開催する予定の企画展に関わる資料の調査、借用交渉などを行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	24年度以降に開催する予定の企画展の計画立案、基礎的な資料の確認調査を行った。

（5）資料の調査整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データなどの整理を行った。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、収蔵資料の公開や、学芸員による解説を実施することで、積極的な集客を図りました。また、展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施し、円滑な博物館運営を行いました。

（1）常設展示室での実施事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示解説	毎月末土曜日に「ラストサタデープログラム」の一環として、学芸員による常設展示解説を行った。 参加者：198名（1日2回：全10回／年度通算12回）
収蔵資料ミニ展示	7・8・9月と1・2・3月の6回、各時代の収蔵資料をスタディサロンで展示し、各最終日に解説を行った。 解説参加者：72人（1日2回：全12回）

（2）常設展示室観覧者の推移（目標数 79,500人）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
23年度	10,767	1,239	12,056	24,062	50,038	74,100	105.1%	311日	238
22年度	11,804	1,078	10,751	23,633	46,868	70,501	95.2%	305日	231
21年度	12,129	1,357	11,944	25,430	48,615	74,045	96.8%	311日	238

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示を補うテーマや新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（1）企画展・特別展の実施

画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
収蔵資料展「寺社参詣・物見遊山－横浜・神奈川の名所」 H23. 6. 11（土） ～7. 10（日） 会期 30日	大人 200円 大高 100円 小中 50円	5,536人 （目標数 8,500人） 1日あたり 185人	浮世絵や絵図、地誌などの資料を中心に、金沢八景や鎌倉・江の島・大山・箱根などの名所の風景を紹介し、江戸時代を通じての、名所の様相の変遷についても触れる内容とした。また本展は、当館の資料収集活動の成果を周知することも目的とする展示であった。神奈川県域の諸街道図や、各名所の現代の観光マップを展示室内に設置し、観覧者が自由に閲覧できるようにした。観覧順路図を展示室内に設置するなど、順路についての工夫も行った。 ① 講演会

			<p>6/26(日) 鈴木良明氏「近世神奈川の名所とその変遷」</p> <p>参加料500円、参加者97人</p> <p>② フロアーレクチャー 3日6回 参加者76人</p> <p>③ 関連イベント(ふるさと横浜探検)</p> <p>6/30(木)「金沢・六浦周辺の名所地を歩く」</p> <p>参加料700円、参加者31人</p> <p>④ 図録等刊行物の作成 1500部作成</p> <p>定価300円、売上362部</p> <p>⑤ 関連図書コーナーの設置(図書閲覧室)</p>
<p>企画展</p> <p>「風景を伝える、持ち帰る 絵はがきあれこれ」</p> <p>H23.7.23(土)</p> <p>～9.11(日)</p> <p>会期51日</p>	<p>大人 300円</p> <p>高大 200円</p> <p>小中 100円</p>	<p>3,727人</p> <p>(目標数 7,000人)</p> <p>1日あたり 73人</p>	<p>横浜ならではの横浜写真や横浜絵はがきを始め、通信省発行の記念はがき、関東大震災の絵はがき、戦争のプロパガンダのための絵はがき、そして大正時代から高度経済成長期にかけての観光絵はがきなど、時系列を踏まえながら総数700点余りを展示した。</p> <p>特徴ある透かし絵はがきは来館者がスイッチを操作して浮き出てくる画像を体感できるようにしたり、観光絵はがきのコーナーではその時代に地域を走っていた鉄道の模型を走らせたり、またレコード絵はがきの音声を会場で流したり、またチケット自体を絵はがきにするといった、意外性を感じられるような工夫を行った。</p> <p>① 絵てがみ教室</p> <p>8/7(日)</p> <p>参加料300円、参加者16人</p> <p>8/21(日)</p> <p>参加料300円、参加者22人</p> <p>9/4(日)</p> <p>参加料300円、参加者15人</p> <p>② フロアレクチャー 3日6回 参加者54人</p> <p>③ 絵はがきを送ろう(期間中毎日)</p> <p>館内に設置した臨時ポストに投函すると、大塚遺跡をデザインした都筑郵便局の風景印が押されるようにした。</p> <p>④ クイズに挑戦(期間中毎日)</p> <p>企画展観覧者にクイズシートを配布、正解者には絵はがきとしても使える団扇をプレゼントした。</p> <p>⑤ 図録等刊行物の作成 1500部作成</p> <p>定価650円、売上121部</p>

			⑥ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
企画展 「東海道保土ヶ谷宿」 H23. 10. 1(土) ～11. 23(水・祝) 会期 46 日	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	9, 333 人 (目標数 7, 000 人) 1 日あたり 203 人	<p>東海道と市域の三つの宿場のうち、保土ヶ谷宿をとりあげ、その成立から4か町からなる同宿の構成が確立していく状況、帷子河岸の盛衰、本陣・問屋を勤めた軽部(苧部)家の役割、助郷村々との関わりなどについて、絵図・浮世絵・古文書などによって多角的に紹介した。</p> <p>落語会・特別講座・研究講座や「電子かわらばん」の上映など関連事業を実施するとともに、予約の団体見学に対しては展示解説をこまめに行った。</p> <p>① 桂歌助師匠による落語会 (「保土ヶ谷宿」他) 11 / 3 (木・祝) 参加料 1000 円、参加者 43 人</p> <p>② 特別講座 10 / 22 (土) 増田恒男氏「保土ヶ谷宿をめぐる文芸と文人たち」 参加料 200 円、参加者 52 人</p> <p>③ 研究講座 10 / 2 (日) 「保土ヶ谷宿の成立と確立」 参加料 200 円、参加者 36 人 10 / 16 (日) 「本陣・問屋と軽部(苧部)家」 参加料 200 円、参加者 61 人 11 / 6 (日) 「帷子河岸の盛衰」 参加料 200 円、参加者 43 人 11 / 20 (日) 「保土ヶ谷宿と助郷村々」 参加料 200 円、参加者 54 人</p> <p>④ よこはま三宿「電子かわらばん」(スライドショー) 上映会 「東海道風景街道」メンバーによる説明 10 / 30 (日) 参加者 80 人 11 / 12 (土) 参加者 40 人 11 / 13 (日) 参加者 40 人</p> <p>⑤ フロアレクチャー 10 回 参加者 194 人</p> <p>⑥ 図録等刊行物の作成 図録 2000 部作成 定価 700 円、売上 592 部</p>

			資料集1500部作成 定価500円、売上200部 ⑦ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
「館蔵 市指定文化財展—中世文書・法華経・埴輪—」・横浜の遺跡展—弥生時代後期の横浜— H23. 12. 10(土) ～H24. 1. 9(月・祝) 会期 20 日	無料	3,045 人 (目標数 3,500 人) 1日あたり 152 人	市民に文化財指定・登録事業及び文化財への理解と関心を深めてもらうことを目的に、市指定文化財の公開を行った。今回は、当館が保管する4件(古文書2件・典籍1件・考古1件)を展観した。同時に市内遺跡の調査・整理の成果を報告する「横浜の遺跡展」、横浜市立学校総合文化祭「社会科作品展」を開催した。またエントランスで干支の土鈴と凧の展示を行った。 ①フロアレクチャー 2日4回 参加89人 ②「横浜の遺跡」展講演会 1/8(日) 安藤広道氏・古屋紀之「横浜市北部の弥生時代後期を探る」 参加料500円 参加者165人 ③関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
企画展 「火の神・生命の神—古代のカマド信仰をさぐる—」 H24. 1. 21(土)～ 3. 20(火・祝) 会期 51 日	大人 400 円 高大 250 円 小中 100 円	9,123 人 (目標数 7,000 人) 1日あたり 179 人	本展では、4世紀ないし5世紀に朝鮮半島から日本列島に伝わったカマドに関する信仰をとりあげた。古墳時代中期から奈良・平安時代にかけての横浜市域をはじめ関東地域の遺跡の出土品から様々な信仰の諸相を紹介し、文献資料を通してその背景にある思想も探った。韓国から研究者を招き、横浜ユーラシア文化館との共催でシンポジウムを開催し、多くの参加者をえた。 ① シンポジウム 2/5(日)「古代における伽耶と倭の文化交渉」 講師：李永植氏・鈴木靖氏 コメント：早乙女雅博氏・荒井秀規氏 参加料1000円、参加者160人 ② 講演会 3/3(土)「カマド神と墨書土器」 講師：荒井秀規氏 参加料500円、参加者64人 ③ バスツアー 2/17(金)「千葉県の古代遺跡と房総のむらを訪ねて」、 参加料4000円、参加者21人 ④ ミニ講座

			2/26(日)「王権のカマド神について」 参加料200円、参加者23人 3/11(日)「平野神と園韓神」 参加料200円、参加者21人 ⑤フローアーレクチャー 3日5回 参加者101人 ⑥図録等刊行物の作成 2000部作成 定価700円、売上534部 ⑦関連図書コーナーの設置(図書閲覧室)
--	--	--	--

(2) 企画展示室観覧者の推移(目標数 56,000人)

	有料観覧者(人)				無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
23年度	6,228	482	2,449	9,159	44,781	53,940	102.9%	246日	219
22年度	7,898	632	4,960	13,490	38,951	52,441	107.2%	226日	232
21年度	7,873	675	2,152	10,700	38,191	48,891	89.5%	239日	205



収蔵資料展「寺社参詣・物見遊山」展示会場



企画展「東海道保土ヶ谷宿」フローアーレクチャー



企画展「火の神・生命の神」韓国からの講師の講演



エントランスを使用しての干支の土鈴と凧の展示

(3) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
古文書解読教室 初めての古文書 H23. 10. 7(金) ～12. 9(金) 毎金曜 10回連続	各回 42人 (目標数 40人) 合計 420人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解読の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：井上攻、小林紀子 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5,000円
近世史講座 H24. 1. 12(木) ～2. 9(木) 毎木曜 5回連続	各回 39人 (目標数 45人) 合計 195人	古文書解読の経験がある人を対象に、内容を重視した上級講座を行った。 講師：斉藤司 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
古代史料講読講座 H24. 1. 18(木) ～2. 15(木) 毎木曜 5回連続	各回 43人 (目標数 45人) 合計 215人	日本古代史の主要な問題について関係史料を読み解く講座を行った。 講師：平野卓治、柳沼千枝 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
土器づくり教室 H24. 2. 12(日) ～3. 17(土) 全4回	各回 18人 (目標数 20人) 合計 72人	横浜縄文土器づくりの会の指導で、港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルに土器づくりの体験教室を行った。 会場：歴史博物館 工房・野外広場 参加料：3,500円
出張土器づくり教室	39人	横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 10/12・26 下末吉小学校 10人 10/13・29・11/25 西富岡小 29人
竪穴住居に泊まろう H23. 9. 17(土) ～9. 18(日)	26人 (目標数 30人)	小学生とその親を対象に遺跡の復元住居で、火起こしや遺跡解説、竪穴住居に宿泊する体験教室を行った。 参加料：大人1,500円、子供700円 参加者：8世帯26人
開館17周年記念特別 講演会 H24. 1. 29(日)	175人 (目標数 170人)	開館17周年を記念して「東部ユーラシアと日本―遣唐使から広がる世界―」と題する特別講演会を行った。 講師：鈴木靖民(当館館長) 会場：歴史博物館 講堂

講師派遣		地域の研究団体、歴史研究サークル等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。延べ32回。
------	--	--

(4) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験学習室 毎日開催	62,074人 (目標数 60,000人)	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容で実施した。
			常時開催：銅鐸鳴らし、石臼で粉ひき、火打石、あかり比べ等 ミニ展示 ・ちょっと昔を探してみよう 7/16(土)～9/30(金) 12/1(木)～3/30(金) ・江戸時代の旅 6/11(金)～7/15(金) 10/1(土)～11/30(水) ・「江戸時代の旅」「ちょっと昔をさがしてみよう」に合わせ、子ども向けのワークシートなどを用意し、放課後や週末のこどもの居場所を提供した。
体験コーナー H23.4.7(木) ～H23.6.30(木)	31,776人	無料	小学校団体が多い4～6月にかけて、エントランスホールで火起こし疑似体験、遺跡公園で貫頭衣を試着したりできるコーナーを設置し、ミニ体験を実施した。
工房 土日開催(1日2回) 20日40回 (年度通算24日48回)	759人	300円	小学生の親子を中心に、楽しみながら歴史に触れる教室を開催した。 勾玉づくり、土偶づくり、小田原提灯づくり、凧づくり、草履編み、紙すき体験、万祝染体験等
出張ワークショップ H23.6.5(日)・6.26(日)・H24.3.3(土)	180人	500円	奈良地区センター・美しが丘西地区センター・都筑地区センターに出張し、勾玉作りのワークショップを実施した。
出前ワークショップ H23.8.2(火)	39人	無料	学童保育「北山田こどもクラブ」の児童を対象に現代アートの出前ワークショップを実施した。
学童保育ワークショップ H23.8.9(火)	8名	300円	「山田こどもクラブ」の児童を対象に工房にて勾玉づくりのワークショップを実施した。
出前火起こしイベント H24.2.12(日)	550人	無料	都筑小学校「おやじの会」主催のイベントに協力し、火起こしの出前指導を実施した。

体験広場野焼き	385人 (目標数 300人)	無料	工房で作った土偶等の野焼きを横浜縄文土器づくりの会と協働で行い、市民に公開した。 8/20(土)、11/6(土)、3/18(土)、 3/25(日)
---------	-----------------------	----	---



体験学習 紙すき



竪穴住居に泊まろう

(5) 「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事業内容
常設展示室 企画展示室 博物館バックヤード	H23. 8. 7、 14、21、 28(日) 1日2回	162人 (目標数 160人)	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：企画展の展示ポイント解説、常設展示室の照度測定体験、赤外線テレビカメラでの調査体験、博物館バックヤード見学など

(6) 「ふるさと横浜探検」の実施 (目標数 30~35人/回)

探訪地	開催日	参加者数	事業内容
金沢・六浦周辺の名所地を歩く	H23. 6. 30 (木)	31人	金沢や六浦周辺の史跡を探訪した。 参加料：700円
恩田川支流、梅田川と新治の里山を訪ねて	H23. 10. 22 (木)	12人	自然観察を中心に梅田川と新治市民の森を訪れた。 参加料：大人700円、小学生300円
江ノ島周辺の史跡散歩	H23. 11. 16 (木)	25人	藤沢からの江ノ島道と江ノ島の史跡を探訪した。 参加料：700円
国史跡八王子城跡を訪ねて	H24. 3. 23 (木)	34人	八王子城址と八王子市郷土資料館を探訪した 参加料：4000円

(7) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
都筑アートプロジェクト 2011 ニュータウン・ドリーミング	H23. 10. 1 7(月)~ 11. 4(金)	8,200人 (入場者)、796	都筑民家園と協働で町内会や商業施設の協力を得て歴史博物館・民家園・遺跡公園を会場に現代アート展を開催した。関連企画として8月から周辺小学校等で

遺跡とアートー		人（ワークショップ等）	のワークショップを実施した。
博物館感謝デー	H24. 1. 28 (土)～ 29(日)	8,759人	常設展示室・企画展示室の無料開放。常設展示・特別展解説、時代衣装を装着した案内係、紙芝居、勾玉づくり、「昭和の横浜」ビデオの上映、土器復元パズル、鏡パズル、ショップフェアを実施した。
ラストサタデープログラム	全3回	710人	常設展示解説のほか、4,5,6月には正面玄関にて火起こし、弓矢体験を実施した。
春休み紙芝居ひろば	H24. 3. 29 ～31 (木～土)	270人	当館に寄贈された街頭紙芝居の活用を図るため、複製を使って紙芝居の公演を行った。

(8) エントランスホールコンサートの実施

横浜市歴史博物館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、博物館エントランスホールを会場としてコンサートを開催しました。

事業名/開催日	事業実績等
第20回コンサート 「天まで届け 星に願いをーフルートとハープのしらべ」 H23. 7. 9(土)	演奏者：ハープ 川崎かぐや、フルート 藤井菜穂子 来場者数：302人
第21回コンサート 「ノエルに贈る歌の花束」 H23. 12. 17(土)	歌手・演奏者：安陪恵美子、前田地香子、加藤千春、飯島まゆみ 来場者数：253人



横浜探検 金沢・六浦周辺の名所を歩く



エントランスホールコンサート



博物館感謝デー 土器パズル



野焼きでの古代米一口体験

(9) ボランティアの活動支援

項 目		事 業 内 容		
ボランティア事業		<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。また、当事業は、ガイド研修を通じて登録者の考古学・歴史学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。 ①ガイド登録者数：66人 ②登録期間 2年間（7期生 平成23・24年度） ③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一 般 60分間 ・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラムなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。 ①登録者数：29人 ②活動実績 4～6月学校団体対応火起こし疑似体験活動 ラストサタデープログラム体験イベント 勾玉教室、区民まつり、感謝デー、アートプロジェクト ユーラシア文化館イベント 活動のべ人数624人 		
ガイドボランティア研修の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・館外研修会・研修講座等を開催した。 ・本年度は第7期の1年目で、活動期間は、平成23年4月1日～24年3月31日。 ・第8期の募集、平成23年11月～24年3月に研修を実施。今年度より毎年募集 		
項 目		平成23年度	平成22年度	平成21年度
活 動 実 績	ガイド実施日数(日)	310	305	306
	解説回数(回)	1,285	951	920
	1日平均解説回数(回)	4.05	3.02	2.87
	参加者数(人)	29,083	28,672	28,296
	団体対応(件)	321	292	306
	団体のうち学校数(校)	289	277	270



遺跡ガイドボランティアの研修風景



活動支援ボランティアの活動 火起こし体験

(10) 学校連携事業の実施

学校利用を促進するために、エドゥケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」及び「教材開発研究会」を運営し、展示資料案内の作成、また、「吉田新田」「出張土器づくり」についての小学校への出前授業と、近隣4区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名／開催日	事業内容等
学校の博物館利用研究会 第1回 H23. 6. 18(土) 第2回 H23. 7. 25(月) 第3回 H23. 12. 3(土)	①横浜市小学校社会科研究会所属の教員5名及び関係職員で構成。財団諸施設の利用方法について検討をおこなった。 ②財団諸施設に対する学校ニーズについて調査した。 ③歴史博物館をはじめ、他館についての利用方法も検討した。
教材開発研究会 第1回 H23. 5. 7(土) 第2回 H23. 7. 30(土) 第3回 H23. 12. 3(土)	①横浜市立中学校教員4名、西部授業支援センター指導員1名財団職員2名で構成。 ②博物館の資料を利用した学習指導案の検討。 ③縄文土器作りを体験、7/30・31 土練り・成形、8/3 磨き、11/5 野焼き、作った土器を利用して煮炊きを体験。
教職員専門研修 H23. 8. 11(木)	市教育委員会が主催する教職員研修を受け入れて実施した。 参加人数：39名
月曜開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し(4日間)、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田出前授業 11校1,141人	10/25(火) 千秀小学校 37名 10/26(水) 南山田小学校 190名 11/1(火) 永谷小学校 75名 11/11(金) 平沼小学校 93名 11/14(月) 藤が丘小学校 116名 11/15(火) 市が尾小学校 135名 11/16(水) 立野小学校 111名 11/18(金) 稻荷台小学校 57名

	1 1 / 2 2 (火) 菊名小学校 137 名 1 2 / 7 (水) 綱島東小学校 110 名 1 2 / 1 3 (水) 西前小学校 90 名
常設展示室吉田新田説明 1 2 校 1, 2 7 3 人	1 0 / 5 (水) 茅ヶ崎東小学校 164 名 1 0 / 1 2 (水) 北山田小学校 87 名 1 0 / 1 4 (金) 勝田小学校 127 名 1 0 / 1 4 (金) 駒林小学校 78 名 1 0 / 2 0 (木) 池上小学校 90 名 1 0 / 2 1 (金) 茅ヶ崎小学校 115 名 1 0 / 2 6 (金) 荳子田小学校 101 名 1 1 / 1 (火) 北綱島小学校 115 名 1 1 / 8 (火) 牛久保小学校 134 名 1 1 / 1 1 (金) 川和小学校 79 名 1 1 / 1 5 (火) すみれが丘小学校 93 名 1 1 / 3 0 (水) 山下小学校 90 名
その他出前授業	川和小学校 (於川和郷土資料館) 2/29(水) 64 名 浜小学校 1/23 (月) 訪問授業 70 名 西富岡小学校(土器作り)10/13(木)10/29(木) 11/25(金)37 名 下末吉小学校 (土器作り) 10/26 (水) 12/20 (火) 7 名
教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 8 / 3 (火) 2 回 6 4 人、8 / 2 4 (火) 2 回 4 1 人
各区社会科研究会への事業	藤が丘小学校 6/29 (水) 37 名 磯子区社会科研究会研修会 1/18 (水)42 名
県立高校日本史「郷土かながわ」授業	県立岸根高校 6月10(金) 生徒10名参加 県立横浜緑園総合高校 7月26(火) 生徒17名参加

(11) 市民諸団体との協働事業

横浜市歴史博物館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体は博物館の支援、博物館との協働を目的に「横浜市歴史博物館関連団体連絡会(もりあげ隊)」が作られ、活動しています。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	当館の学芸員と史料の翻刻を行い、紀要に発表した。 「金川日記について(4)」(『横浜市歴史博物館紀要第16号』)
「横浜縄文土器作りの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> 出張土器づくり教室(下末吉小、西富岡小)を実施した。 土器づくり教室(H24.2.12(日)~H24.3.17(土)全4回)を実施した。

「横浜さいかちの会」との協働	講演会を共催した。 小田静夫「壺屋焼が語る琉球外史」12/5（日） 講堂 120人 ・古文書教室、「日本書紀」を読む講座の開催。
「横浜市歴史博物館連絡団体連絡会」との協働	・博物館感謝デーにおける常設展示室クイズラリーの実施、活動紹介パネル展の実施。 ・会員の家族・親族へのアンケートの実施。

(12) 小・中学校団体利用の推移（目標数 500 校）

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
学 校 数 (校)	433	415	393
児 童 ・ 生 徒 数 (人)	41,308	39,984	38,132

(13) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 (A日程) 期間：H23.5.28(土)～11.26(土)の内、9日間 受入数：13人 (B日程) 期間：H22.7.28(木)～8.23(火)の内、8日間 受入数：12人
社会研修の受け入れ	生徒・学生・社会人の社会体験・研修等を受け入れた。 5/19・20(木・金) 市立中川西中学校 8人 8/2～5(火～金) 県立港北・岸根高校 4人 8/4・5・18～20 県立高校新任教員研修 2名 11/1・2(火・水) 私立横浜女学院中学校 4人 11/22・24・25(火・木・金) 市立東山田中学校 4人 1/17・18(火・水) 市立荏田南中学校 3人 1/26(木) 市立中川中学校 4人 2/4(土) 私立武蔵高校 3人 2/7～17(火～金) フェリス女学院大学 1人

(14) 広報出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内(年2回) 通史展示解説シート

出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース（2回） 各20,000部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第20集 700部作成 横浜市歴史博物館紀要 第16号 800部作成 横浜市歴史博物館調査研究報告 第8号 800部作成
その他広報	市営地下鉄6駅構内の広報案内看板による広報 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 都筑区民まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による広報 FM放送への情報提供 グランドミュージアム北部エリア会議参加 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
収蔵資料等データ入力及びインターネット公開	収蔵資料、図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 ・データ入力件数 合計 1,302件 ・インターネット公開 収蔵資料情報の公開 合計 50件（前年度50件） 図書文献資料情報の公開 合計 1,302件（前年度2,096件）
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページ上で、博物館の催し物案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 320,03件（前年度 322,525件）

6 歴史博物館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜市歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（1）横浜市歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
横浜市歴史博物館	施設の維持管理、補修・修繕、燻蒸 スタディサロン・歴史劇場の運営 講堂、研修室の貸出

	主な修繕： 継電器修繕、中央監視装置部品工事等 所在地： 都筑区中川中央一丁目
横浜市歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・ ^{さいかちとど} 歳勝土遺跡公園」の管理 主な修繕： 復元竪穴住居 2 棟の屋根部分の修繕。遺跡説明板の修復。 所在地： 都筑区大榎西

(2) 講堂・研修室利用の推移

項 目		平成 2 3 年度	平成 2 2 年度	平成 2 1 年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	2 3, 6 3 6	2 5, 2 1 9	2 5, 1 2 0
	利 用 件 数 (件)	1 5 6	1 4 5	1 3 3
	うち有料貸出件数 (件)	3 2	1 6	1 3
研 修 室	利 用 者 数 (人)	7, 9 6 5	7, 3 3 1	7, 0 8 8
	利 用 件 数 (件)	2 8 1	2 3 0	2 5 2
	うち有料貸出件数 (件)	1 3 8	1 5 1	1 5 2

(3) 横浜市歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		平成 2 3 年度	平成 2 2 年度	平成 2 1 年度
横浜市歴史博物館野外施設 (人)		5 7, 3 3 7	5 9, 1 7 4	6 3, 3 1 5
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	5 2, 7 2 7	5 2, 7 7 5	5 8, 4 9 6
	工 房 (人)	4, 6 1 0	6, 3 9 9	4, 8 1 9

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈・寄託による資料収集を行うとともに、複製資料の制作やマイクロフィルム制作などによる収集活動を着実に行いました。収集資料の整理・保管・データ入力、資料の修繕を進め、保管環境の維持にもつとめました。また、画像資料の有料貸出も継続しました。本年度の収集資料は 5, 0 2 7 点で、市内の紙芝居師であった鷺塚氏からの街頭紙芝居の一括寄贈は貴重な資料群と評価できます。	B
調査研究事業	収蔵資料に関する調査研究を 3 本、また地域資料に関する調査研究を 2 本実施し(1 本は市内研究機関と協働)、その成果は報告書・紀要等として刊行・公開すると共に、講座・講演会、企画展等に反映させました。市民協働による民俗調査研究も軌道にのりました。2 4 年以降の企画展の基礎	B

	調査も計画の通り実施しました。	
常設展事業	来館者に気持ち良く観覧してもらうため、定期的メンテナンスや部品交換、修繕、清掃等を計画通り実施し維持管理に努め、同時に経年劣化による規模の大きな修繕も行いました。学芸員による展示解説、収蔵資料ミニ展示及び解説等は定着し、高い満足度を得ています。ただ常設展示の入場者数は、当初目標の93%で、前年度は上回ったものの目標には達しませんでした。夏期頃までは震災の影響があったと考えられます。今後も、市内外の学校への様々な形での働きかけの強化を図ります。	C
企画普及事業	当初計画した様々な事業は予定通り実施しました。企画展・特別展の入場者は目標の96%という結果でした。夏期までは、入場者が伸び悩みましたが、秋以降は順調に増加しました。市民協働においては、活動支援ボランティアが定着し、調査研究やOB団体の活動などに新しい展開がありました。学校連携としては、学校団体見学数は当初目標の87%で昨年を上回りました。吉田新田の出前授業・常設展示室吉田新田コーナーの解説・教職員向けの研修など着実に実施しました。	B
情報事業	館内の端末での情報提供とインターネットでの収蔵資料情報の公開等、情報発信を計画に基づき実施しました。インターネットへのアクセス数は、ほぼ昨年並みでした。また、ツイッターによる情報発信も開始しました。	B
施設維持事業	博物館・遺跡等施設の維持管理を適切に実施しました。空気調和機修繕及び蒸気加湿器の更新、野外施設の復元竪穴住居2棟の屋根部分の修繕や遺跡説明板の修復を実施しました。	B

V 開港資料館事業

開港資料館は、昭和56年6月2日に開館し、平成23年6月2日に、開館30周年を迎えました。財団では30周年を記念した2回の企画展示を開催するとともに、記念出版をおこない、記念講演会を開催しました。また、6月2日には横浜市長列席のもと資料所蔵者や関連施設の方々、開館以来の協力者をお招きし、記念式典（中庭記念展示パネル除幕式と所蔵者・協力者感謝会）を開催しました。

入館者数については、22年度は空調機器改修工事による臨時閉館や猛暑による影響で大幅に入館者が減少しましたが、23年度は前年に比べ約7千人増加し、入館者の減少に歯止めがかかりました。このほか、開港資料館が事務局をつとめる横浜郷土史団体連絡協議会に関する事業も順調に発展し、23年度からは歴史博物館の職員も事務局に加わりました。大学との連携では今年度から横浜市立大学大学院生をインターンシップとして受け入れました。

また、近代横浜の歴史をあつかう開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の連携をより強化するため、組織の改編をおこない3つの施設をひとつの課に統合し、職員が協力して事業をおこなう体制を構築しました。なお、3施設の共同事業については都市発展記念館のところに詳述しました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開（H23.4～H24.3）

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈10件455点 寄託5件1430点	主な収集資料：有吉忠一関係文書、三澤農子家所蔵資料ほか
資料の購入	42件 321点	主な収集資料：都筑郡下川井村文書、古写真ほか
古文書のマイクロ化	4件	主な複製（マイクロ撮影）資料：横山家文書ほか
資料の保存処理・修繕	9件	中性紙封筒への入れ替え、図書・洋新聞の修復
資料の分類・整理	古文書など 約2,500点	収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用2,806人 コピー枚数30,961枚	邦字・欧字新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
写真資料・画像資料の撮影	撮影件数（52件）古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影を行った。

複製フィルム等の貸出	貸出件数590件 1,824点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。
実物資料の貸出	貸出件数9件	他の博物館（横浜みなと博物館・神奈川県立歴史博物館ほか）へ実物資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H23.4~H24.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料 (点)	— (—)	— (2)	— (—)	— (—)	— (2)	13,027 (13,027)
文書・記録 (点)	21 (208)	12 (9)	207 (166)	1376 (409)	1616 (792)	76,008 (74,392)
新聞資料 (点)	160 (5)	3 (—)	1 (44)	— (—)	164 (49)	9,930 (9,766)
横浜絵・写真等 (点)	10 (237)	7 (—)	243 (15)	5 (4)	265 (256)	31,738 (31,473)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	3 (1)	49 (—)	52 (1)	50,218 (50,166)
文献資料 (点)	72 (93)	8 (—)	1 (—)	— (—)	81 (93)	56,338 (56,257)
合 計	263 (543)	30 (11)	455 (226)	1430 (413)	2178 (1193)	255,247 (253,069)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製フィルム等の貸出実績

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
出版社（一般書・教科書・雑誌）、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への貸出	590件	614件	864件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
閲覧室利用者数 (人)	2,806	2,900	3,196
複写申込件数 (件)	1,430	1,462	1,719
複写枚数 (枚)	30,961	34,467	43,176
レファレンス件数 (件)	2,854	2,730	3,117

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
害虫防止策	収蔵庫・展示室窓に紫外線防止フィルム貼付、害虫忌避剤の散布
環境検査	5回/年 実施

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保管資料
横浜開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫他	マイクロフィルム、器物資料等の収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者とも協力して行いました。

(1) 基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史	①長野県で発見された貿易関係資料の分析を実施。 ②次年度開催予定の横浜の海に関する展示についての調査と研究。 ③スイス人商人の日記の翻刻。
横浜近代政治史	①横山家文書などの整理および第10代横浜市長有吉忠一関係資料の公開。 ②横浜の写真館に関する調査と研究。 第4回企画展示「フォトスタジオの聖地・横浜」を担当。
横浜近代社会経済史	①茂木商店関係資料の整理。 ②事業創業者関係資料の調査と研究。 ③商標の整理・公開。 第3回企画展示「港都横浜 近代日本のナビゲータ」を担当。
横浜近代文化史	①栗原家文書と石井本陣関係資料などの調査と研究。 ②所蔵和装本の調査と公開に向けての装備。 ③洋装本の整理の実施。
横浜近代欧米関係史	①開館30周年記念講演会、記念出版物などの取りまとめ。 ②生麦事件を題材にした次年度の企画展の準備と調査。 ③横浜外国人社会の調査と研究。 第1回企画展示「たまくすの木が見た横浜の157年」を担当。
横浜近代アジア関係史	①華僑口述記録調査・編集作業を実施。 ②『横浜華僑の記憶』を編集・発行。 ③次年度開催予定の横浜の海に関する展示についての調査と研究。 第4回企画展示「フォトスタジオの聖地・横浜」を担当。
歴史情報の集積と研究	①新聞・雑誌の整理と公開。 ②小泉家文書や黒部家文書の整理と公開。 ③横浜日日新聞の調査。

(2) 調査研究の委託

項目	委託先	目的・意図 及び 内容・成果
横浜市政及び周辺郡部の調査研究及び横浜の貿易・経済史の調査研究（1／3年次）	横浜近代史研究会 （代表 大豆生田稔）	①鶴見川中流域の旧家が所蔵する古記録の分析と整理 ②近代横浜関係人物データベース化作業 ③かつて調査した市内の古文書所蔵者の追跡調査
幕末・明治初年の貿易史と江戸期の和本に関する調査研究（1／3年次）	横浜史料調査研究会 （代表 井川克彦）	①幕末・明治初年の貿易関係史料の調査と分析 ②江戸期の和本に関する史料の調査と整理 ③スイス人商人ブレンワルドの日記の翻刻
大正・昭和戦前期の横浜山手在住外国人社会の調査研究（1／3年次）	横浜外国人社会研究会 （代表 本宮一男）	①関係資料の市内所在調査 ②在住外国人のデータベース化と分析 ③在英の生麦事件関係及び英連邦墓地墓地関係資料の調査・収集
華僑関係史料の調査研究（1／3年次）	横浜華僑史研究会 （代表 曾士才）	①オーラルヒストリーの実施 ②関係史料の所在調査 ③中国人墓地の調査

(3) 研究紀要の発行

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
横浜開港資料館 紀要 第30号	1,250部	1,529円	当館専門職員による資料の調査研究、整理等の成果をまとめた。 ・論文「野澤屋呉服店とその百貨店化過程」 ・史料紹介「日米和親条約締結交渉時に記された林大学頭の従者の日記」 ・特集「横浜開港資料館の三〇年の歩み」

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

(1) 常設展示室観覧者の推移（目標数 61,000人）

	有料入館者（人）				無料入館者 （人）	合計 （人）	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	閲覧室	計					
23年度	31,623	7,015	1,207	39,845	16,923	56,768	113.8%	304日	187
22年度	24,496	7,405	1,204	33,105	16,758	49,863	69.6%	295日	169
21年度	41,164	8,287	1,416	50,867	20,824	71,691	103.9%	230日	312

※ 平成21年12月28日から平成22年4月9日まで、空調機器全館改修工事のため休館。

※ 平成22年4月24日全室開館まで、展示室を無料開放した。

(2) 新収蔵資料や新発見資料紹介コーナーの設置

常設展示室の一角に、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設け、調査研究の成果をいち早く紹介した。

項目	内容・成果
資料紹介	第31回 6 / 1～7 / 8 「横浜なつ景色、夏じたく」 第32回 7 / 9～7 / 28 「横浜関帝廟 150年目の夏」 第33回 7 / 29～8 / 31 「横浜を彩る花火」 第34回 9 / 1～9 / 30 「綴られた関東大震災～1923年9月1日から88年を経て」 第35回 10 / 1～11 / 30 「横浜、秋の運動会—学校と職場の運動会—」 第36回 12 / 1～12 / 27 「太平洋を渡った船大工 鈴木長吉」 第37回 1 / 4～1 / 29 「幕末・明治のお正月」 第38回 2 / 1～3 / 31 「下岡蓮杖の遺品」
開館30周年記念事業	記念室等を公開し、記念室や常設展示室で特別展示を行った（6/1～6/30）。 ・「横浜開港資料館30周年 これまでにお迎えしたさまざまなお客さま」 ・開館30周年記念講演会（7/9） ・ミュージアムショップセール

(3) 旧館ホール・中庭展示

昨年度から来館者の動向調査を兼ねて、無料展示スペースである旧館ホール・中庭展示の見学者数の集計を始めた。

旧館ホール見学者： 64, 473人

中庭展示見学者： 105, 293人
 (目標数 100,000人)



右の写真は開館30周年を記念して作成した中庭展示パネル

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催や紀要・資料集・書籍出版等で発表しました。また、市民との協働を積極的に進め、講演会の実施や会報の作成指導等を行いました。さらに、開館30周年を記念した記念式典を開催しました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
<p>開館30周年記念 part 1 たまくすの木が見た横浜の157年 —ペリー来航から開港資料館まで H23. 4. 20(水)～7. 24(日) 会期 77日 (4・5月を含む期間合計)</p>	<p>期間合計 16,052人 (目標数 21,000人) 1日あたり 208人</p>	<p>今年、開館30周年を迎えたことを記念して、ペリー来航時から存在し、横浜市の史跡に認定されている館の中庭のたまくすの木の歴史に焦点をあてながら、おもに館蔵資料を基にペリー来航から今日までの横浜の歩みを紹介した。</p>
<p>広瀬始親写真展 横浜ノスタルジア 特別篇 昭和30年頃の街角 「コクリコ坂から」の時代を見る H23. 7. 27(水)～10. 23(日) 会期 77日</p>	<p>21,417人 (目標数 16,000人) 1日あたり 278人</p>	<p>広瀬始親氏撮影の昭和30年頃の写真を中心にして、昭和30年頃の横浜の街と人びとの姿を紹介した。</p> <p>① 刊行物の出版 「横浜ノスタルジア 昭和30年頃の街角」 河出書房新社、2,520円</p> <p>② 関連企画の実施 「横浜ノスタルジック・ツアー 昭和ディープなハマを歩く—大岡川・港かいわい—」 9/17・10/15 参加料：500円、参加者：75人 横浜シティガイド協会と共催</p> <p>③ 財団内の他施設と連携展示を実施 ・「カメラがとらえた昭和30年頃の横浜～クルマのある風景」(横浜都市発展記念館) ・「野毛山の『昭和』—坂と公園の物語」(横浜市史資料室)</p>
<p>開館30周年記念 part2 港都横浜 近代日本のナビゲーター —資料がかたるその諸相— H23. 10. 26(水)～H24. 1. 29(日) 会期 77日</p>	<p>10,068人 (目標数 13,000人) 1日あたり 131人</p>	<p>開館30周年記念展示2として、19世紀後半に港都横浜が歴史上に出現し、日本近代化の試行の場となったことを、館蔵資料、とくに市民から提供された資料を中心に紹介し、あわせて開館後30年間の資料収集の成果の一端を披露した。</p> <p>① フロアレクチャー 11/23、12/11、1/14 (期間中3回) 参加者：延べ52人</p> <p>② 図録等刊行物の作成 2000部作成(販売用1850部) 定価：840円</p>

フォトスタジオの聖地・横浜 H24. 2. 1(水)～4. 15(日) 年度中会期 52 日	6,759 人 (23 年度 内) 1日あたり 130 人 (期間合計 目標数 11,000 人/ 実績数 8,702 人)	2012 年は、日本写真界の草創期を支えた下岡蓮 杖が馬車道に写真館を創業してからちょうど 150 年目にあたる。蓮杖をはじめとして、幕末から昭和 にかけて、横浜の街と家族を撮らえ続けたさまざま な写真館の姿を紹介した。 ① 記念講演会の実施 3 / 17 (日) 参加料：1,000 円、参加者：55 人 ②横浜市写真師会による写真パネル展示 ③「横浜開港写真館」 旧館記念室を利用し、昔の写真館のスタジオを再 現。 ④横浜シティガイド協会と共催でミニ講座と写真ゆ かりの地を歩く事業を開催
--	--	---

(2) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
横浜開港資料館開館 30 周年記念講演会	280 人 (目標数 300 人)	7 / 9 (土)、会場は横浜市開港記念会館 講師は竹内誠、宮地正人
都市横浜シリーズ講 座「モダン都市」横 浜を考える	426 人	横浜都市発展記念館と共催。 10/29、11/5、11/12、11/19、11/26、12/3 の全 6 回 講師は松本洋幸、青木祐介、岡田直、平野正裕、吉崎雅規、羽田 博昭
企画展「フォトスタジ オの聖地・横浜」記念 講演会	55 人	3 / 17 講師は齊藤多喜夫、南信一郎

(3) 各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
「広瀬始親写真集 横浜ノスタルジア 昭和 30 年頃の街角」	発行は民 間出版社	2,520 円	企画展で紹介したものを中心に、広瀬始親氏の写真 126 点を収録。昭和 30 年頃の郷愁を誘う、横浜の街 と人びとの姿が浮かび上がる写真集。 (横浜開港資料館編・河出書房新社発行)
「資料がかたる横浜 の 157 年—たまくす が見た国際港都の あゆみ」	1,500 部	840 円	開館から 30 周年を迎えた今年までに収集した約 25 万点の資料の中から選び抜いた約 200 点を掲載。当 館の中庭に繁るたまくすの木をメインに据え、横浜 が歩んできた 157 年の歴史をたどる。学校教育での 活用も想定し、表現を易しくし、ルビを振った。

(4) 市民との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び横浜開港資料館と各団体との協働事業を推進することを目的に、平成18年度末に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業として、会報の作成や、講座等を行いました。(平成23年度末現在、加盟51団体)

項 目	事 業 内 容 等
横浜市郷土史団体連絡協議会との共催事業	①研修会 第21回 5 / 25(水) 第22回 9 / 9(金) 第23回 12 / 10(土) 第24回 3 / 23(水)全4回 参加者：延べ 118人 ②横浜郷土史連絡協議会 News の発行21号～20号 ③「特別講座資料に触れる」を実施(全2回) ④磯子区の加盟団体と古文書解説テキストを編集 ⑤会報6号を刊行

(5) 新聞社各社への記事連載への協力

項 目	事 業 内 容 等
神奈川新聞連載「学芸員ネットワーク、郷土史展望」、読売新聞連載「震災を乗り越え」(3月9日～24日、全10回で終了)の企画・監修	神奈川新聞の連載「学芸員ネットワーク、郷土史展望」は月1回第3水曜日掲載で、現在も連載が継続中。

(6) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れとインターンシップ	①博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：8 / 23(火)～8 / 28(日)(6日間) 受入数：12人 ②横浜市立大学大学院生のインターンシップ 期間：6 / 28(火)～10 / 25(火)(のべ10日間)

(7) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第113号～115号(年4回、本報告期間中は3回)年間合計55,000部
リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット(小中学生用) 横浜開港資料館案内パンフレット(一般用) 横浜開港資料館催し物案内

その他広報	<ul style="list-style-type: none"> ①インターネットによる広報 ②メールニュースによる催し物などの情報発信 ③市営地下鉄関内駅構内の広報案内看板利用 市営地下鉄電車内ポスター掲示、各駅構内掲示版利用 市営地下鉄駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ④みなとみらい線日本大通り駅構内の広報案内看板利用 みなとみらい線駅構内のパンフレットラック、ポスター掲示 ⑤市内類似観光施設・主要ホテル・観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑥市内小中高校へのポスターチラシ配布 区校長会への企画展事業案内 区連会掲示板へのチラシ掲出 ⑦一般新聞・タウン情報誌、旅行情報誌等への記事掲載 ⑧TV、ラジオ、FM放送、CATV等の放送メディア利用 ⑨企画展後援新聞紙（連載）・市広報誌等への記事掲載 ⑩フィルムコミッション等に協力し、撮影場所を提供 ⑪各種団体のスタンプラリー等参加による集客活動
-------	--

(8) 開館30周年記念式典について

開催日 : 6月2日(木)

会場 : 中庭および講堂

式典内容: 開館30周年を記念して作成した中庭展示パネル除幕式、市長挨拶、館長挨拶、来賓挨拶、開港から関東大震災までの横浜の歩みを所蔵資料をもとに編集したDVDの上映、寄贈資料の内覧会など

5 情報事業(定款第4条第1項第1号②)

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
インターネットによる情報公開	ホームページの内容、体裁を一新し、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を行った。また、今年度からOPACでの所蔵図書の情報発信を開始し、ウェブ上での検索を可能にした。 ・HPアクセス件数 アクセス件数 合計129,747件(前年度89,743件)
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」を毎月1回計12回、約800名をこえる登録者に配信した。

6 開港資料館施設維持事業(定款第4条第1項第1号③)

横浜開港資料館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜開港資料館	必要に応じた施設の維持管理を実施

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	古文書・写真など15件、1885点の寄贈・寄託を受け入れたほか、42件321点の資料を購入した。23年度末の所蔵資料総点数は25万5千点を超え、着実に業務を進めている。	B
調査研究事業	調査研究員の研究事業は順調で、その成果を展示・講座・出版で公開した。また、外部研究者に委託した調査研究活動も、予定通りの成果をあげ、資料の所在確認や分析を進めることができた。研究の成果が新聞やテレビで取り上げられることも多く、横浜市内の施設の中ではもっともマスコミへの露出度が高い。	A
常設展事業	新収・新発見資料コーナーで8回にわたって展示を開催したほか、旧館記念室でのミニ展示、旧館ホールでのミニ展示を開催した。また、6月2日には中庭に設置した展示パネルの除幕式をおこなった。	A
企画普及事業	入館者は前年度から約7千人増加し5万6千人を超え、前年比の113%に達した。目標値6万1千人には達していないが、入館者の減少には歯止めがかかった。	C
情報事業	HPでの収蔵資料の公開を拡充したほか、OPACでの図書情報の発信を開始した。また、メールニュースでの情報発信も順調である。	A
施設維持事業	新館収蔵庫の電動式書庫の修理を横浜市と共同で実施したほか、施設設備については日常の維持管理を実施した。	A

VI 都市発展記念館事業

今年度、都市発展記念館では、近現代歴史資料課の発足にともない、開港資料館や市史資料室との事業連携を強化し、あわせて当館の事業を市民に親しまれるように改革していくことを目標に掲げました。展覧会では話題性のある昭和をテーマにした企画を開港資料館との連携で開催し、連続講座では3施設の講師がそれぞれの専門性を生かした講座を実施することで、集客と来館者サービスの向上に努めました。また、次年度に向けて開港資料館と一体化した企画展の開催準備、3施設の共同研究の検討なども行いました。

また、ユーラシア文化館とは2施設一体となって、市内小学校4年生を対象とする解説付き団体受入や、市民ボランティア活用、各種イベントの実施、1階レイアウト変更による新規事業展開、デザインのできるアルバイトを雇用してチラシの自主作成や広報媒体の見直しを行いました。さらには、横浜市交通局や市民団体など外部の協力を得ることでより幅広い事業展開を実現しました。

この結果、常設展観覧者数は35,002人、企画展観覧者は15,813人、市内学校団体来館数は79校6,428人（うち小学校4年生62校6,072人）となり、いずれも開館以来最高の利用者数となりました。また、ギャラリーを活用してのパネル展や市民ボランティアによる体験学習の実施、9周年イベントの開催（2日間で3,437人来館）など、多彩な事業も展開しました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

（1）資料収集

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈22件312点 寄託1件1点	主な収集資料：震災復興記念奉迎式パノラマ写真、ジェラルール瓦〔Ⅱ型〕、横浜市電等紙焼き写真、横浜中央電話局職員証 主な寄託資料：Yokohama Reconstructed 1929
資料の購入	36件189点	主な収集資料：日本フォード横浜工場関連資料、セントジョセフカレッジ卒業アルバム、横浜市立復興小学校建築図集、京都市営電気事業沿革誌
資料修繕	0件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	0件0点	主な複製資料：なし
複製資料デジタル化	318点	主な資料：紙焼き市電写真、横浜絵葉書

複製資料の提供	40件 122点	他の博物館や公共機関、出版社などへ所蔵資料を画像で提供した。特に本年度は、横浜市文化観光局の要請によりスタジオジブリによる映画「コクリコ坂から」製作に全面協力し、映像資料を提供した。
資料の貸出	3件 5点	他の博物館施設（横浜みなと博物館、中図書館ほか）での展覧会に当館所蔵資料の貸出をおこなった。

(2) 資料収集実績 (H23.4~H24.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	0 (-)	0 (-)	104 (28)	0 (1)	104 (29)	1,322 (1,218)
図書	36 (49)	0 (-)	1 (1)	1 (-)	38 (50)	1,957 (1,919)
新聞雑誌	2 (1)	0 (-)	2 (-)	0 (-)	4 (1)	1,796 (1,792)
文書	0 (469)	0 (-)	0 (12)	0 (-)	0 (481)	3,300 (3,300)
紙票類	14 (136)	0 (-)	5 (50)	0 (1)	19 (187)	1,911 (1,892)
写真	0 (-)	0 (-)	189 (17)	0 (-)	189 (17)	6,836 (6,647)
絵葉書	133 (183)	0 (-)	0 (30)	0 (-)	133 (213)	2,376 (2,243)
地図	1 (56)	0 (-)	3 (-)	0 (-)	4 (56)	653 (649)
図面	1 (-)	0 (-)	0 (2)	0 (1)	1 (3)	938 (937)
絵画	1 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (-)	0 (-)
映像	0 (-)	0 (-)	7 (-)	0 (-)	7 (-)	54 (47)
録音資料	0 (-)	0 (-)	1 (-)	0 (-)	1 (-)	168 (167)
電子資料	1 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (-)	12 (11)
合 計	189 (894)	0 (0)	312 (140)	1 (3)	502 (1,037)	21,324 (20,822)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	今年度燻蒸処理は実施せず。 収蔵庫内の保管用に中性紙の資料保存容器（アーカイバル容器）を新規に製作した。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査を実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保管資料
横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

(5) 画像資料の公開

横浜市中心部の地図にさまざまな施設をポイントし、関連する画像や歴史情報を閲覧できるようにした「横浜歴史情報マップ」の地点情報を、合計56地点に追加更新した。

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民のくらし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また、来年度から開港資料館や市史資料室との共同研究を立ち上げるための検討を行いました。

(1) 基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜市域の近代遺跡と出土遺物に関する調査研究 (1/5年次)	近代遺跡の観点から横浜の都市形成史を明らかにすることを目的として調査を行っている。本年度は、キリンビール工場跡地採取遺物の記録化を行ったほか、 埋蔵文化財センターと共同で旧松風閣 (三溪園内の煉瓦造建築) の発掘調査 を実施した。 成果については、調査報告として紀要で報告した。また、 次年度に発掘速報展として広く公開 していく。
市電写真に関する調査研究 (1/1年次)	所蔵する約500点の横浜市電写真 (昭和40年代撮影) について、撮影地点の特定を目的として調査を行った。現地確認や資料の照合、写真の寄贈者や当時を知る市民への聞き取り調査などにより実施した。 成果は特別展「横浜にチンチン電車が走った時代」において公開し、図録としても出版した。
昭和初期横浜のモダン都市文化の調査研究 (1/2年次)	1920~30年代の「モダン都市横浜」の諸相を明らかにすることを目的に、昭和戦前期の横浜中心部に存在した商業・娯楽施設の文献・画像資料の分析を進めた。これに関連して久米正雄関係資料の整理と昭和初期横浜市中心部の地図作成をおこなった。 成果は連続講座・「横浜歴史情報マップ」・紀要で公開した。
3施設による共同研究のための検討会 (1/1年次)	横浜開港資料館・都市発展記念館・横浜市史資料室との共同研究を立ち上げる にあたり、各施設で所蔵する資料の情報交換や役割分担の確認をおこなった。 その結果、昭和期を中心とした全体的な研究テーマの抽出、施設横断型の地図データベースの作成を実施していくこととした。

(2) 資料の調査整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理・目録作成	調査研究で収集した資料・データなどの整理・目録作成を行った。 主な整理資料：キリンビール工場跡地採取遺物、旧松風閣遺構採集遺物、市電紙焼き写真、久米正雄関係資料、秋田家文書、小石川家文書、昭和初期百貨店チラシ、中山家文書

(3) 研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市発展記念館 紀要 第8号	1,000部	当館調査研究員による調査研究、資料整理等の成果を公開した。 ・横浜の近代遺跡と出土遺物・その4 ・三溪園旧松風閣調査報告・その2 ・久米正雄関係資料目録・続

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項目	事業内容
展示資料の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市形成」「市民の暮らし」ゾーンで現物資料の新規公開 ・展示室内に造作壁を増設して、従来の「掘り出し物コーナー」の展示面積を拡大した。 ・博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介コーナーを一定期間設置した。
コーナー展の開催	<p>次のミニ展示・パネル展示を開催した。</p> <p>4 / 23（土）～「赤レンガ倉庫の100年」 横浜赤レンガ倉庫建築100周年を記念して開催した。</p> <p>7 / 27（木）～「カメラがとらえた昭和30年頃の横浜～クルマのある風景」 製作協力した映画「コクリコ坂から」の関連展示、および開港資料館との連携展示として、開港資料館所蔵の広瀬始親氏撮影写真によるパネル展を開催した。</p> <p>10/25（火）～「関外と伊勢佐木の発展～吉田新田その後」 小学校4年生の学習に対応する内容として開催し、団体見学を積極的に受け入れた。</p> <p>3 / 3（土）～都市シリーズ『京都』日本の路面電車発祥の地特別展「横浜にチンチン電車が走った時代」に合わせて開催した。</p>

(2) 常設展示観覧者の推移 (目標数30,000人)

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
23年度	11,676	1,373	13,049	21,953	35,002	287.2%	310日	113
22年度	6,025	989	7,014	5,170	12,184	109.6%	302日	40
21年度	5,975	1,168	7,143	3,973	11,116	64.9%	307日	36

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。

特に今年度からは、**学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関の協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現**しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「東京－神戸 昭和の東海道 『六大都市』をめぐる」 H23. 4. 16 (土) ～6. 26 (日) 会期62日	一般 300円 小中 150円	期間合計 3,240人 (目標数 3,000人) 1日あたり 52人	所蔵する地理資料をもとに、昭和に変遷していった横浜を含む「六大都市」とそれを結んだ「東海道」の姿を紹介した。また、 1階スペースを活用して記録映画の解説付き上映会を実施 した。 ①展示解説および上映会 上映作品：新日本地理映画「東海道の今と昔」昭和33年 4/30、5/1・3・4、6/5・19 参加者：計165人(目標数80人) ②図録等刊行物の作成 1300部(配布用300部) 定価：500円、売上：424部 ③ミュージアムショップにて旅行・鉄道・地図関係の博物館図録フェアを実施
特別展 「横浜にチンチン電車が走った時代 まちの 主役！路面電車」 H24. 1. 28(土) ～4. 1(日) 会期55日 (23年度のみ)	一般 300円 小中 150円	12,573人 (3.31まで) (期間合計 目標数 4,500人/ 実績数 13,051人)	横浜の市電が廃止されて40年となるのを機に、横浜の路面電車の歴史と昭和を中心とする横浜の街並やLRTなど新しい都市交通のあり方を紹介した。また、 市民から公募した写真活用しての写真パネル展を1階の新スペースで開催 した。 横浜市交通局の全面協力を得て、市営地下鉄や市営バスに無料でポスターを掲示した。その他市民グループの協力を得て、パネル展やイベントを開催した。

		1日あたり 229人	<p>①展示解説 1/29、2/12・26、3/25 参加者：計169人</p> <p>②パネル展「新しい都市の交通・LRT」 【共催】横浜ユーラシア文化館 【協力】日本路面電車同好会</p> <p>③パネル展「路面電車が走るまちかど」 国内各都市の路面電車が走る風景写真を市民から募集し、展示した。応募点数：39点</p> <p>④図録等刊行物の作成 初刷1300部（配布用300部）＋2刷500部 定価：1500円 売上：館内1098部＋一般書店79部</p> <p>⑤オリジナル・ミュージアム商品「思い出の横浜市電方向幕手ぬぐい」の製造・販売 定価：500円 売上：540枚</p> <p>⑥当館と市電保存館の二館にご来館いただいたお客様への特典（絵葉書のプレゼント、両館計250枚の利用）</p> <p>⑦開館9周年イベントの開催（後述）</p>
次年度企画展調査			次年度開催予定の企画展の調査を行った。



企画展「東京―神戸 昭和の東海道」上映会



特別展「横浜にチンチン電車が走った時代」展示解説

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数7,500人)

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者 (人)
23年度	6,764	9,049	15,813	252.6%	117	135
22年度	3,485	2,805	6,290	112.6%	150	42
21年度	3,417	2,171	5,588	53.3%	168	33

※都市発展記念館とユーラシア文化館は企画展示室を共用しており、都市発展記念館は、21・22年度は各1.5回 (年度をまたぐ展示が1回)、23年度は2回の企画展示を開催しました。

(3) 開館9周年感謝イベントの実施

事業名称	参加者数	事業内容
開館9周年感謝イベントの開催 H24.3.10 (土)・11 (日) 全2日間	3,437人	開館9周年を記念して、ユーラシア文化館との共催によりイベントを開催。 市民ボランティアや市民グループの協力を得て 、常設展・特別展の無料開放、手回しトロコ試乗体験、コンサート、おはなし会、大道芸、無声映画の上映パフォーマンス、ギャラリートーク、民族衣装試着体験等を行った。

(4) 講座・講演会・歴史散歩など普及事業

事業名称	参加者数	事業内容
「子どもアドベンチャー2011」の開催 H23.8.17 (水)・18 (木) 全2日間	53人	当初予定の夏休み子どもウォークを変更し、市内小中学生を対象に1日職業体験を実施した。 当初定員(予定20名)を大幅に上回る応募があったため、追加で受け入れた。 展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーなどを実施した。
「ミュージアム・クイズラリーよこはま2011」への参加 H23.7.16 (土)～8.31 (水)	277人	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設16館で実施した。期間中に、新聞博物館・ユーラシア文化館・シルク博物館と連携して、各施設を巡るツアーも開催した(8/24、参加12名)。
連続講座『『モダン都市』横浜を考える～昭和はじめの都市文化と空間～』 H23.10.29 (土)～12.3 (土) 全6回	426人	開港資料館・市史資料室で連携した連続講座を開催した。 横浜の歴史の中で光が当たることが少なかった「モダン都市」横浜の魅力を多角的に解き明かした。 10/29 「大横浜と大東京」 松本洋幸 11/ 5 「モダン都市の街並みをおるく」 青木祐介 11/12 「スピード時代の都市の交通空間」 岡田直 11/19 「スクリーンの中の横浜モダン・イメージ」 平野正裕 11/26 「ハマの『モダン・ライフ』」 吉崎雅規 12/ 3 「ハマのモダンボーイ・モダンガールと戦後」 羽田博昭

神奈川新聞での記事連載		「チンチン電車が走った時代」計3回 (2/29、3/7、3/14)
-------------	--	--------------------------------------



連続講座の様子



9周年感謝イベント 手回しトロッコ試乗体験

(5) 出版事業

項目	事業内容
常設展図録の増刷	常設展示図録『目で見える都市横浜のあゆみ』完売により、増補改訂版の発行に先んじて、現行版の増刷(第4刷)を優先して実施した。
DVDシリーズ「映像でたどる昭和の横浜」再版	販売が好調で第1巻「港とまちづくり」・第2巻「都市の交通」ともに完売 したため、第4巻の編集・作成に先んじて、再版を優先して実施した。
特別展図録「横浜にチンチン電車が走った時代」増刷	特別展図録が期間中に完売したため、増刷を実施した。

(6) 学校連携事業

項目	事業内容
市内学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)を テーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを開発、市内学校団体を誘致 し、好評を博した。 79校 6,428人(うち、小学校4年生 62校 6,072人)
教員向け研修の企画	財団エデュケーターと、吉田新田の学習をはじめ、横浜の歴史をテーマとする教員向け研修の検討を行った。「吉田新田の開発とその後」の研修については、次年度から実施することとなった。
大学講義への講師派遣	歴史博物館・開港資料館と連携して、フェリス女学院大学の集中講義に講師を派遣した。
学芸員実習の受け入れ	4名の学生を受け入れた。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。

職業体験の受け入れ	小中学生の1日職業体験（子どもアドベンチャー・前述）及び中学生を中心とした職業体験の受け入れを行った。中学生については合計で2校9名を受け入れたが、うち8名については財団初の試みとなる8名5日間の体験を受け入れた。
-----------	---



市内小学校団体見学



実習生による展示

(7) 平成24年度に向けての取り組み

開港資料館・市史資料室と施設の枠を超えた連携強化を実現し、次年度から次の事業を行うための準備を進めた。

項 目	事 業 内 容
開港資料館との連携企画展の実施準備	企画から開催まで2つの館が一体となって、同一のテーマについて2つの館の個性を活かしながら、 開港資料館を第1会場、当館を第2会場とした完全連携の企画展「横浜の海 七面相」の開催準備を進めた。
地図データベース作成に関する調査研究	当館及び開港資料館・横浜市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索できるようにすることを目的に、各施設の地図資料の整理・目録化、データベースの作成準備を行った。
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業	戦争の時代から戦災復興を経て高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにし、展示・講座等の事業へ繋げていく 連携研究事業について、開港資料館・市史資料室と立ち上げに向けての検討を行った。
業務分担と予算の使い方の見直し	都市発展記念館・開港資料館・市史資料室の職員としてではなく近現代歴史資料課の職員として、個々の職員が施設の枠にとられない業務分担と予算の使い方に見直すことで、 施設の壁を越えた事業連携を実現した。

(8) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。館報については、継続して配布した。 ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展示ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第16・17号（各10,000部）
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の特典を大きく見直し、販売を継続した。年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じたの記者発表 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「横浜絵葉書データベース」等収蔵資料の画像公開
メールニュース配信	希望者に対してメールニュースの配信を実施した。当館の催し物について担当者がわかりやすく記事を執筆し、情報の羅列ではなく、読みでのある内容とした。 配信数 28号～31号+号外4回 計8回

「横浜歴史情報デジタルマップ」の拡充	デジタル化した過去の横浜の地図上に、各地点に関する歴史資料（画像）・歴史的情報を表示させる「モダン横浜歴史情報マップ」の地点数を計56地点まで拡充した。
ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーにブログで発信した。 記事総数 34件（前年度55件）
インターネットによる新着情報発信	ホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。 アクセス件数 47,274件（前年度39,337件）

6 横浜都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜都市発展記念館	施設の維持管理 ・主な修繕：アナログ光電式煙探知機の交換修繕 所在地：中区日本大通12

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	昭和期の資料を中心に23件313点の寄贈・寄託を受け入れ、36件189点の資料を購入しました。資料整理も予定どおり進捗し、整理が終わった資料については、紀要や展示、HPを通じて公開しました。	B
調査研究事業	予定していた調査研究については、予定どおり進捗することができました。加えて、開港資料館・市史資料室との共同研究についても検討を進め、 次年度から3施設が共同で作業を開始 することとなりました。	A
常設展事業	常設展示室コーナー展については、今年度は 開港資料館企画展や学校カリキュラムとの連携を行うことで、企画展開催期間ではない時期についても、集客を図ることに成功 しました。観覧者数の当初目標を前年目標の17,000人から30,000人と176%の増で設定しましたが、目標数の116.7%超となり、 対前年比としては287.2%と、過去最高の観覧者数を記録 しました。	A

<p>企画普及事業</p>	<p>今年度は、開港資料館・市史資料室との連携、ユーラシア文化館との連携、学校団体の誘致、各種イベントの実施など、数々の新規事業を立ち上げてのチャレンジとなりました。その成果が実り、特別展の観覧者数は過去最高となり、企画展観覧者数合計も目標の210.8%超、対前年比も252.6%となりました。市内学校団体来校数、書籍売上についても、過去最高を記録しました。</p>	<p>S</p>
<p>情報事業</p>	<p>定期的なメールニュースの発行、ブログを利用した情報発信に加えて、HP上で公開している「横浜歴史情報デジタルマップ」等の画像データベースでも情報公開を継続しました。HPへのアクセス数は目標30,000に対し、47,274と157%であり、前年度からも20%アップしました。</p>	<p>B</p>
<p>施設維持事業</p>	<p>施設設備については、日常の維持管理を行いました。ガラス壁面や屋根の破損、防犯カメラや消防設備の経年劣化についても監視を続けながら、長寿命化を図っています。</p>	<p>B</p>

Ⅶ ユーラシア文化館事業

今年度は「ユーラシアとは何か？」という原点のテーマに立ち返り、ユーラシアと日本・横浜との繋がりや対比を意識して、各企画展内容の見直しから始めました。東部ユーラシア世界という観点から、**歴史博物館との共同研究も見据え、次年度から2つのテーマを手掛けていくこととなりました。**

また、都市発展記念館と同じ建物にある強みを生かして、都市発展記念館企画展開催時には、**日本とユーラシアを対比したテーマでパネル展示を行うことで、集客とサービスの向上を図りました。**そのほか、**二施設一体となって、市内小学校4年生を対象とする解説付き団体受入や、各種イベントの実施、1階レイアウト変更による新規事業展開、専属デザイナーを雇用してチラシの自主作成や広報媒体の見直しを行いました。**

さらには、**市民ボランティアの活用によるワークショップの充実を図り、外国人コミュニティや各国大使館などの外部機関の協力を得ることでより幅広い事業展開を実現しました。**

この結果、**常設展観覧者数は32,753人、企画展観覧者は14,185人、市内学校団体来館数は79校6,428人（うち小学校4年生62校6,072人）**となり、ギャラリーを活用してのパネル展や市民ボランティアによる体験学習の実施、9周年イベントの開催（2日間で3,437人来館）など、多彩な事業展開を実現しました。

これにより、**今年度は過去最高の観覧者に恵まれ、ミュージアムショップ販売収入の大幅増に貢献**することも出来ました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈1082点 寄託0点	主な収集資料：東南アジア採集陶磁器および民族資料等、中国漢代陶器および国内採集陶片等、写真アルバム等
資料の購入	0点	主な収集資料：なし
資料熟覧	10件	青銅製鹿形飾板等11点（韓国国立中央博物館研究者による資料調査）、楔形文字粘土板文書等16点（岡山県立美術館による展覧会のための資料調査）ほか
文献資料熟覧	1件	The Houghton Shahnamehなど（女性教育振興会）

資料の貸出	1 点	自鑪庁至烏斯蔵程站輿圖複製1点（東海大学研究者との共同研究のため）
収蔵資料の画像利用	10 点	楔形文字粘土板文書1点（『図書館教育ニュース』少年写真新聞社）、アラビア文字呉州赤絵皿1点（「開運！なんでも鑑定団」テレビ放映）、漢代画像石拓本5点（日本動物愛護協会機関紙に掲載）ほか

(2) 文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
バジル・グレイ旧蔵書	書誌データの内容を確認した。 入力件数 929件
洋図書	書誌データの入力は既に完了。
和図書	書誌データの入力を行い、OPAC 公開した。 入力件数 126件
雑誌	書誌データの入力を行った。 入力件数 168件

(3) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (-)	0 (-)	1,052 (605)	0 (-)	1,082 (605)	4,681 (3,599)
図書	15 (12)	0 (-)	117 (33)	0 (-)	132 (45)	19,595 (19,643)
雑誌	8 (-)	0 (-)	19 (46)	0 (-)	27 (46)	7,800 (7,773)
電子資料	0 (-)	0 (-)	1 (-)	0 (-)	1 (-)	17 (16)
合 計	23 (12)	0 (-)	106 (684)	0 (-)	1,082 (696)	32,113 (31,031)

※ () 内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	資料保全のため、受贈した民族資料および書籍の二酸化炭素燻蒸を実施し、収蔵庫へ納めた。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

収集資料の整理や、企画展や講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。東部ユーラシア世界という観点から、歴史博物館との共同研究も見据え、次年度から2つのテーマを手掛けていくこととなりました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
フィリピン等民族資料の研究(1/1年)	収蔵するフィリピン等民族資料について、撮影、基本情報(資料名・収集時期・地域・年代など)を確認、データベース化し、その 成果を企画展「フィリピンの文化と交易の時代」として公開した。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究(1/5年)	市民から寄贈を受けた資料の調査と整理を進め、成果を館報で公開した。公開により、新たな受贈申入れを受けることができた。
遊牧世界の物質文化の研究(1/5年)	国内にある遊牧民の資料(考古資料・民族資料)について調査し、データを蓄積することを目的に、外部研究者との研究会を実施した。 体験学習教材用として、ゲルの寄贈を受けることができ、体験学習として使用するために、組立の実験を行った。
収蔵絵図の調査(1/2年)	当館所蔵絵図「自鑪庁至烏斯蔵程站輿圖」について、外部研究者と共同研究することを検討することとなった。今年度は、赤外線による調査を実施した。
収蔵資料と関連資料の研究(1/5年)	当館収蔵資料及び関連施設所蔵のイスラーム資料に関する調査して、今年度は館蔵ファイアンスに関連した資料調査を実施した。 成果については、特別展「古代エジプト 青の秘宝ファイアンス」として展示公開した。
メソポタミア楔形粘土板文書の研究(1/5年)	Neo-Sumerian Administrative Texts of the Hirose Collection 収録資料の翻字読み直しに関する調査を行い、ガラスビュー英語版の作成を検討した。データベースの公開に向けて、データ修正を完了した。

3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

常設展示室において、収蔵資料の特別公開や、企画展と連動した展示替えを行いました。また、都市発展記念館が開催する展覧会のテーマに合わせた写真パネル展を開催し、集客とサービスの向上を図りました。

(1) 常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	<ul style="list-style-type: none"> ・6月「フランス月間」に合わせ、ライブラリーでフランス関係の書籍を紹介。 ・収蔵絵図「自鑪庁至烏斯蔵程站輿圖」特別公開(12/10-25)。会期中にギャラリートーク実施 12/17・18・25 参加者:28人 ・写真パネル展「新しい都市の交通・LRT~海外を走る次世代の路面電車」(1/28~4/1)、また情文プラザにて「世界のトラム」(3/3~3/18)。都市発展記念館特別展「横浜にチンチン電車が走った時代」関連企画として、世界の路面電車を紹介。

(2) 常設展示観覧者の推移 (目標数 30,000 人)

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
23年度	10,401	981	11,382	21,371	32,753	272.7%	306日	107
22年度	6,003	844	6,847	5,162	12,009	115.8%	304日	40
21年度	5,739	789	6,528	3,839	10,367	63.5%	304日	34

(3) 速報ミニ展示の試行

サッカーオリンピック予選に合わせ、1階無料ゾーンで速報ミニ展示「クウェート展」を開催し、クウェートの国と文化を紹介した。観覧者511人。

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

今年度は「ユーラシアとは何か?」という原点のテーマに立ち返り、ユーラシアと日本・横浜との繋がりや対比を意識して、各企画展内容の見直しから始めました。また、都市発展記念館と二施設一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、外国人コミュニティーや各国大使館などの外部機関の協力による各種イベントを実施しました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「フィリピンの文化と交易の時代 ハロハロで Good!」 H23.7.16(土)～ 9.25(日) 会期62日	一般 400円 小中 200円	5,339人 (目標数 3,100人) 1日あたり 86人	館蔵のフィリピンの民族資料や考古学資料を紹介し連続講座を実施した。展示室内にフィリピンの生活道具や衣装に触れる体験コーナーを設けたほか、 大学授業との連携や、市民団体や市内外在住のフィリピン人と協働でイベントを行った。 ①展覧会図録の出版 定価：900円、販売冊数：211冊 ②イベント「フィリピン ハロハロ夏祭り」 8/6・7、9/24 ダンス、音楽、おはなし会、ギャラリートーク、民族衣装試着などを開催。 当日の入館者2,401人、体験参加者652人 ③連続講座「フィリピンの文化と交易の時代」 8/20・27、9/3・10(全4回) 参加者：152人 ④ギャラリートーク 7回実施 参加者：155人 ⑤生活道具や衣装に触れるワークショップ 期間中、延べ13日開催 参加者：552人
特別展「古代エジプト 青の秘宝ファイア ンス」	一般 500円 小中	8,846人 (目標数 6,000人)	国内所蔵の古代エジプト・ファイアンス資料を通して、その歴史や願い、魅力、製作技法など様々な視点から紹介した。また、エジプトと日本の関わりを

H23. 10. 8(土)～ H24. 1. 9(月・祝) 会期 76日	250円	1日あたり 116人	写真パネルで紹介し、エジプト文化に親しめるように体験コーナーを設置した。 体験コーナーでは市民ボランティアの協力を得た。 ①パネル展示「今も昔も日本人はエジプトが好き！」 ②展覧会図録の販売 定価：1450円、販売冊数：307冊 ③関連講演会「ファイアンスの謎に迫る」 12/3 参加者：99人 【共催】日本ガラス工芸学会 ④ギャラリートーク 6回実施 参加者：137人 ⑤エジプトプチ体験コーナー 民族衣装試着、ヒエログリフスタンプなど 参加者：833人 ボランティアのべ活動人数 35人
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



ハロハロ夏祭り



ファイアンス展展示解説

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数 9,100 人)

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者 (人)
23年度	3,566	10,619	14,185	362.2%	138	103
22年度	1,902	2,014	3,916	132.2%	124	32
21年度	1,596	1,366	2,962	40.8%	104	28

※ユーラシア文化館と都市発展記念館は企画展示室を共用しており、ユーラシア文化館は、21年度は1回、22年度・23年度は2回の企画展示を開催しました。

(3) 開館9周年感謝イベントの実施

事業名称	参加者数	事業内容
開館9周年感謝イベントの開催 H24. 3. 10 (土)・11 (日) 全2日間	3,437人	開館9周年を記念して、都市発展記念館との共催によりイベントを開催。 市民ボランティアや市民グループの協力を得て 、常設展・特別展の無料開放、手回しトロッコ試乗体験、コンサート、おはなし会、大道芸、交通局復興記念映画上映、ギャラリートーク、民族衣装試着体験等を行った。

(4) 普及啓発

項目	参加者数	事業内容
企画展・常設展関連アート&グルメ	63人	横浜中華街の店舗とのタイアップ企画。展示と食文化を連携させた広報で相乗効果を図った。
フランス月間への参加 H23. 7. 16 (土)～8. 31 (水)		フランス月間に参加しフランスミュージアムグッズ販売と、ライブラリーでの書籍によるフランス紹介を行った。
「子どもアドベンチャー2011」の開催 H23. 8. 17 (水)・18 (木) 全2日間	53人	当初予定の夏休み子どもウォークを変更し、市内小中学生を対象に1日職業体験を実施した。 当初定員(予定20名)を大幅に上回る応募があったため、追加で受け入れた。 展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーなどを実施した。
「ミュージアム・クイズラリーよこはま2011」への参加 H23. 7. 16 (土)～8. 31 (水)	258人	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設15館で実施した。同時に、都市発展記念館・新聞博物館・放送ライブラリー・シルク博物館と連携して、各施設を巡るツアーも開催した(8/24、参加12名)。
ゲル組立ワークショップ H23. 12. 23 (金) H24. 3. 6 (火)		モンゴル人留学生と歴博ボランティアとの協働で、ゲルの組立実験を行った。 ボランティア活動人数 12/23 6人、3/6 6人



子どもアドベンチャー



ゲル組立ワークショップ

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、 職員による解説とミニ体験のメニューを開発、市内学校団体を誘致 し、予想以上の好評を博した。 79校 6,428人(うち、小学校4年生 62校 6,072人)
教員向け研修の企画	財団エデュケーターと、吉田新田の学習をはじめ、横浜の歴史をテーマとする教員向け研修の検討を行った。「吉田新田の開発とその後」の研修については、次年度から当施設でも実施することとなった。
学芸員実習の受け入れ	12名の学生を受け入れた。企画展準備や実習により、学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。
インターンの受け入れ	2名の学生を受け入れた。当館イベントやワークショップのスタッフとして職業体験を行った。
職業体験の受け入れ	小中学生の1日職業体験(子どもアドベンチャー・前述)及び中学生を中心とした職業体験の受け入れを行った。中学生については合計で2校9名を受け入れたが、うち8名については財団初の試みとなる8名5日間の体験を受け入れた。
出前講座	戸塚高校夏休み講座「戸高まなび塾」へ講師を派遣した。



市内小学校団体見学



職業体験

(6) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施	<p>歴史博物館の協力を得て、歴史博物館活動支援ボランティアによる当館でのワークショップを実施した。また、次年度から館の内外でボランティア活動の範囲を拡大するための準備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エジプトプチ体験コーナー のべ活動人数 35人 ・ゲル組立ワークショップ のべ活動人数 12人 ・9周年感謝イベント のべ活動人数 12人 <p style="text-align: right;">計 59人</p>

(7) 平成24年度に向けての取り組み

歴史博物館と連携強化の一環として、次の事業を実施し、次年度から行うための準備を進めた。

項 目	事 業 内 容
<p>歴史博物館との共同シンポジウムの実施</p> <p>H24. 2. 5 (日)</p>	<p>歴史博物館企画展「火の神・生命の神ー古代のカマド信仰をさぐる」の関連事業としてシンポジウム「古代における加耶と倭の文化交渉」を共催事業として実施し、国内外から第一線の研究者を講師・コメンテーターとして招聘し、多くの参加者を得た。またユーラシア文化館での関連展示やチラシ配布など、2館で連携して展示内容の充実と集客の向上に取り組んだ。</p>
日本における「ユーラシア」の理解に関する研究の実施	<p>「ヨーロッパ」と「アジア」を合わせた「ユーラシア」という言葉を広め、理解を深めるため、日本の出版物や学校教育の中でユーラシアという単語がどう使われ、どう教えられてきたのかを調査し、講座等でその成果を公開するために、歴史博物館との連携準備を進めた。</p>
東部ユーラシアの文化交流の研究の実施	<p>当日本を含む東部ユーラシア諸地域の文化交流について、歴史博物館と共同で調査研究を行うための準備を進めた。</p>

(8) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	<p>都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。館報については、継続して配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜ユーラシア文化館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展示ポスター・チラシ ・館報『News From EurAsia』第15・16号（各10,000部）
優待カードの発行	<p>年間パス「EAハマ発カード」の特典を大きく見直し、販売を継続した。年会費 1,500円</p>

その他広報	横浜市を通じての記者発表 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR 近隣へのダイレクトメール発送
-------	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室に設置された端末で主な展示資料の検索が可能。
	文献：館蔵文献のOPACを公開することで、館外からのインターネット検索を可能にした。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計66,850件（前年度51,432件）

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：アナログ光電式煙探知機の交換修繕 所在地：中区日本大通12

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は予定どおり進捗しました。整理が終わった文献資料については、成果として、HPやOPACを通じて公表しました。	B
調査研究事業	予定していた調査研究については、予定どおり進捗することができました。加えて、 歴史博物館との共同研究についても検討を進め、次年度から2つのテーマについて実施することとなりました。	A
常設展事業	常設コーナー展については、今年度は都市発展記念館企画展や学校カリキュラムとの連携を行うことで、企画展開催期間ではない時期についても、集客を図ることに成功しました。観覧者数の当初目標を前年目標の19,000人から30,000人と158%の増で設定しましたが、 目標数の109%超となり、対前年比としては272.7%と、過去最高の観覧者数を記録しました。	A
企画普及事業	今年度は、 都市発展記念館と一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、外国人コミュニティーや各国大使館などの外部機関の協力による各種イベント実施など、数々の新規事業を立ち上げてのチャレンジとなりました。その成果が実り、特別展の観覧者数は過去最高となり、企画展観覧者数合計も目標の155.8%超、対前年比も362.2%となりました。市内学校団体来校数についても、過去最高を記録しました。	S
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、資料公開を進めました。HPへのアクセス数は目標48,000に対し、66,850と140%であり、 前年度からも30%アップ しました。	S
施設維持事業	施設設備については、日常の維持管理を行いました。ガラス壁面や屋根の破損、防犯カメラや消防設備の経年劣化についても監視を続けながら、長寿命化を図っています。	B

VIII 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を發揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理を継続するとともに、三殿台遺跡発掘調査 50 年特別展から戻ってきた遺物を中心に補修・復元作業を行いました。三殿台遺跡収蔵の写真資料をスキャンし、デジタル化するとともにインデックスの作成を開始しました。また、三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡から出土した収蔵資料について順次埋蔵文化財センターへ移動しています。

常設展事業では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うとともに、9・12月に展示内容の更新を行いました。

三殿台遺跡発掘調査 50 周年記念事業を5月（ゴールデンウィーク勾玉作り教室）・8月（パネル展示）・10月（遺跡散歩）に開催しました。

企画普及事業では、火起こし、勾玉作り、土偶作り、勾玉・拓本教室、キャンプ in 三殿台を継続実施し、新規事業として土器作り、拓本取り、古代人体験教室、石器作り教室を実施しました。また、学校や地域住民が行う行事への職員派遣も積極的に行い連携を図りました。

市民協働事業としては、市民ボランティアスタッフによる収蔵遺物の再整理を行うとともに、ボランティアによる常設展示・遺跡のガイドを継続実施しました。第2期指定管理期間の活動参加者延べ人数目標 600 人の 96.5%にとどまりました。

管理運営面では、事務棟・展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・擬木遺構の維持管理を適切に実施しました。

これらの事業を通して施設の有効利用と認知度・顧客満足度が高まったものの、真夏の猛暑、真冬の寒さ等の影響により第2期指定管理期間平均来館者数目標 17,500 人の 88.2%、前年度比約 95%の来館者数にとどまりました。今後もさまざまな工夫をし、市民サービスの向上、他施設・近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

各事業報告

1 資料収集・保管事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）資料の整理、復元等

項 目	事 業 内 容
新たな土器の接合・復元	発掘 50 年企画展示から戻ってきた土器を中心に、修復・復元作業を 37 個体行う。

三殿台遺跡出土品以外の遺物を埋蔵文化財センターへ移管	三殿台周辺遺跡以外の出土品（木箱 527 箱）、と図面類（カルトン 22 セット・筒 11 個・保護なし 3 セット）について、埋蔵文化財センターへの移動を行う。
図書資料の受入れ	寄贈された図書を整理分類し、138 冊の受入れを行った。
記録資料のデジタルデータ化	三殿台考古館所蔵写真データのスキャン（2830 カット・アルバム 69 ページ）、およびインデックスの作成を継続中。

（2）資料保管施設

項 目	事 業 内 容
三殿台考古館収蔵庫（66 ㎡）	三殿台遺跡及び三殿台周辺遺跡出土の考古資料の保管。 遺物を遺跡ごとに整理・分類したものを、収蔵庫及び 3 個の倉庫に収納している。

2 常設展事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、9 月・12 月に展示内容の更新を行いました。また、団体および一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を行いました。

（1）遺跡案内・展示解説の実施

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について展示解説を行った。
展示更新の実施	9・12 月の 2 回、展示更新を行った。



9 月次展示室更新



遺跡散歩

3 企画普及事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

三殿台遺跡発掘調査 50 周年記念事業として、5 月・10 月にイベントを、8 月にパネル展示を開催しました。

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を開催し生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。石器作りや古代人体験教室など、メニューを追加し体験の幅

を広げました。

(1) 普及啓発

項 目	参加人数	事 業 内 容
展示解説の実施		来館者の理解を深めてもらうため、展示解説を実施した。
三殿台遺跡発掘 50 周年記念事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールデンウィーク勾玉作り教室H23.5.5 参加24人 ・ 遺跡散歩 遺跡を訪れ、各遺跡についてわかりやすく解説した。 第2回 H23.10.16 (第1回はH23.4.21に開催) 参加17人 ・ 発掘50周年記念パネル展「岡村・磯子と三殿台」 三殿台遺跡発掘50周年特別展「大昔の村を掘る—三殿台遺跡と横浜の考古学—」の展示資料の一部を再構成して三殿台考古館展示室にて開催。 開催期間 H23.8.1～8.31
随時受け付け火起こし・勾玉作り教室の開催	214 人 (目標数: ※印の事業 合計 300 人)	随時受け付けている火起こし・勾玉作り体験を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 火起こし 133 人、参加料 100 円 ・ 勾玉作り 81 人、参加料 300 円
夏休み体験教室 火起こし H23.7.2～7.16 毎土曜 全3回	4 人 ※	小学生の親子を中心に、火起こしの起源や方法などを解説しながら、楽しみながら歴史にふれられる教室を開催した。 参加料：100 円
夏休み体験教室 勾玉作り H23.7.3～8.28 日・木曜 全6回	61 人 ※	小学生の親子を中心に、勾玉作りをとおして、楽しみながら歴史にふれられる教室を開催した。 参加料：300 円
夏休み体験教室 土偶作り H23.7.17・7.18・8.27	23 人 ※	小学生（親子可）を対象に土偶作りを行った。 参加料：300 円
夏休み体験教室 土器作り H23.8.3・8.27	8 人 ※	小学生（親子可）を対象に土器作りを行った。 参加料：500 円
キャンプ in 三殿台 H23.7.23～24 H23.9.10～11	4 家族	小学生とその親を対象に遺跡の住居跡で、火起こしや遺跡解説、原始・古代のお話など、宿泊する体験教室を行った。 (9月は応募なく中止した)。 参加料：テント一張り 2,000 円
夏休み古代人体験教室 H23.8.10	6 組 13 人※	火起こしや弓を射る体験などを通して、古代人の暮らしを知ってもらうイベントを開催した。
夏休み拓本とり教室 H23.8.20	8 人 ※	土器の文様を写し取る拓本の体験を行い成果品をシートにして持ち帰ってもらった。

土器作り教室 H23.9.25～11.12（4回） H24.1.15～3.3（4回）	17人 ※	土器作り教室を秋・冬の2回開催した。 参加料：2,000円
「私たちが作った土器」展 の開催 H23.11.20～12.5 H24.3.12～3.27	1,029人 (目標数 1,000人)	土器作り教室の様子をパネルと作品で紹介する展覧会。秋と冬2回開催した。
石器作り教室 H23.10.30・H24.2.26	21人 ※	大人から子どもまでを対象に石器作りの講座を行った。 参加料：300円
勾玉・拓本教室 H23.12.18	12人 ※	大人から子どもまでを対象に勾玉づくりと土器の文様を 写し取る拓本の体験を行った。 参加料：400円

(2) 学校・地域連携

項 目	参加人数	事 業 内 容
学校団体見学・一般団体 見学受入れ	4,639人	学校及び一般団体の受入れを行った。 学校団体 43団体 2,761人 一般団体 70団体 1,878人
岡村小学校地域交流クラ ブ	19人	地域交流クラブの「昔しらベクラブ」で、講師を務めた。 H23.6.7～12.6 全9回
土器作り協力	68人	岡村小学校6年生の土器作りに協力した。 H23.10.22・11.2・12.7 全3回
サマースクール支援	34人	サマースクール活動支援で、講師を務めた。(H23.7.28・29) 上大岡小 参加者：27人 勾玉作り 磯子小 参加者：7人 火起こし
博物館実習の受け入れ H23.8月	1人	大学の博物館実習生を受け入れた。

(3) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡出土遺物の水洗い・ 注記・土器の接合・復元の実施	遺物整理ボランティアの手で、三殿台遺跡出土遺物の水洗い・注記・土器の接合実施。延べ495人が参加した。
遺跡ガイドボランティアによる 遺跡ガイドの実施	遺跡ガイドボランティアによる遺跡ガイドを実施した。延べ84人が活動し、1,370人をガイドした。



遺物整理ボランティア



古代人体験教室

(4) 広報出版

項 目	事 業 内 容
チラシ類の作成	年間事業チラシ・土器づくり教室等のチラシを作成
その他広報	インターネットによる情報提供 一般新聞・雑誌等への広報掲載による広報 市報の区版への情報提供

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に不快感を与えないよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
三殿台考古館	事務棟管理 所在地：磯子区岡村四丁目
三殿台遺跡	国指定史跡「三殿台遺跡」の管理 展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理。遺跡内草刈り、植栽剪定

(2) 三殿台考古館施設入場者の推移（目標数 17,500 人）

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
横浜市三殿台考古館（人）	15,439	16,223	18,596

(3) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
横浜市三殿台考古館（円）	40,318	38,780	37,142

(4) 記念品缶バッジの作成及び販売 1,000個作成 販売価格1個100円
発掘50周年記念の缶バッジセット・第7・8弾を発売した。

23年度（4月～）売上 779個 77,900円

(5) 土器片ペンダントの販売 販売価格1個 700円

23年度（4月～）売上 5個 3,500円

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集・保管事業	<p>資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理を継続するとともに、三殿台遺跡発掘調査 50 年特別展から戻ってきた遺物を中心に 37 個体補修・復元作業を行いました。三殿台遺跡収蔵の写真資料をスキャンし、インデックスの作成を行っています。また、三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡から出土した収蔵資料について順次埋蔵文化財センターへ移動しています。</p>	B
常設展事業	<p>常設展事業では、職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施しました。また、9・12月に展示内容の更新を行いました。</p> <p>来館者数は 15,439 人であり、目標 17,500 人の 88.2%、前年度比 95.2%にとどまりました。</p>	C
企画普及事業	<p>三殿台遺跡発掘調査 50 周年記念事業として、体験イベントと、パネル展示を開催しました。</p> <p>市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験教室の開催、講師派遣などを行い、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。石器作りや古代人体験教室など、メニューを追加し体験の幅を広げました。</p> <p>遺物整理ボランティアは延べ 495 人が参加しました。遺跡ガイドボランティアは延べ 84 人が参加し、1,370 人をガイドしました。活動参加者延べ人数目標 600 人の 96.5%にとどまりました。</p>	B
施設維持事業	<p>遺跡内の事務棟・展示棟・竪穴住居址保護棟・復元住居・遺構表示擬木、芝生・樹木等の維持管理を適切に行いました。日常清掃・芝生の刈り込みや、トイレ清掃等については職員が行うなど経費の節減に努めました。自動販売機等の売り上げは、ほぼ前年並みで推移しています。</p>	B

収益事業

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を実施しました。

歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の各施設へ来館されるお客様により快適にお過ごしいただけるよう、ミュージアムショップ商品の見直しや特別セールの実施、自動販売機の設置などの事業を行いました。

今後はミュージアムショップ事業のさらなる魅力向上に積極的に取り組み、運営の効率化と収益の向上に努めていきます。

I 歴史博物館収益事業

1 歴史博物館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップの経営

- ① 勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売した。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施した。
- ③ オリジナル商品を開発した。

(2) 来館者駐車場の経営

(3) 自動販売機（5台）の設置

II 開港資料館収益事業

1 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップの経営

絵葉書、バンダナ、ミニタオル、関連書籍等を販売した。

(2) 自動販売機（1台）の設置

(3) 喫茶室の委託

来館者サービスとして附属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Au jardin de Perry（ペリーの庭で）

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

1 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップの経営

① ミュージアムショップのレイアウト変更

ミュージアムショップの配置を従来の場所からエレベータホール前へ移設し、観覧者の動線上にミュージアムショップがあり、商品を目に留める位置となるよう、レイアウトを変更した。

② ミュージアムショップ商品の見直し

オリジナル商品・委託商品の販売実績を再検討し、商品および販売価格の見直しを行った。イベント開催時のセールなどで大幅な割引も実施し、停滞する商品在庫の圧縮を図った。

③ オリジナル商品の販売

各企画展図録や刊行物のほか、地図・絵葉書・メモ帳・DVD・クリアファイルなどを販売した。また、新商品として「こぶちゃん飴」を販売した。

④ 委託商品の販売

各企画展やフランス月間などのイベントに合わせ、商品のラインナップを大幅に変えることで、売れ筋の商品を陳列した。

(2) 自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

(1) ミュージアムショップ売上の推移

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
横浜市歴史博物館（千円）	7,082	7,900	9,296
横浜開港資料館（千円）	6,129	6,196	10,571
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	9,120	5,447	7,025

(2) 駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営しました。（館内32台、屋外140台）

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
利用台数（台）	5,955	5,781	6,779
月あたり利用台数（台/月）	496	482	565
料金収入（千円）	2,336	2,397	2,684

(3) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
横浜市歴史博物館（千円）	347	386	459
横浜開港資料館（千円）	96	97	157
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	78	77	82

(4) 喫茶室の委託

施設利用者の利便を図るため、開港資料館附属棟において、喫茶室を営業しました。

項 目	平成23年度	平成22年度	平成21年度
喫茶室委託料収入（千円）	1,761	1,896	2,229

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
歴史博物館事業	入館者数は増加したものの、ショップ売上は前年度比して 90%、駐車場収入は 97%であり、収入予算に対しては、ショップ 75%、駐車場 91%であった。	C
開港資料館事業	収入は前年度に対し 2.5%の減となったが、残部数の少ない売れ筋商品を増刷するなど、収入向上策をはかった。	B
都市発展記念館・ユーラシア文化館事業	展覧会や各種イベントも好調であったことで、今年度のミュージアムショップ売上は好調であった。特に、 都市発展記念館関連の図録やエジプト・フランス関連委託商品の売上は顕著 であった。図録の増刷などもあったため、期末棚卸残高は増加したが、停滞していた商品在庫は圧縮できた。	S

平成 23 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がありませんので作成しません。

平成 24 年 6 月
公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団